

独立行政法人国立博物館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

①評価を通じて得られた法人の今後の課題

- 中期計画に沿って、着実に成果をあげている。
- 諸事業の拡大に伴う、各分野のスペシャリストの人員増加が必要となっている。
- 教育普及事業の位置付けの明確化、施設の耐震化への対応が課題である。
- 広報については、グループ全体のイメージを伝えるマークを作成するなど戦略的な取り組みが必要である。

②法人経営に関する意見

- 各理事が主たる業務(危機管理担当等)を横断的に担い、責任の明確化を図ったことを高く評価する。
- 一方、国立博物館としてのビジョンや目的をより明確にすることが必要である。このため、法人全体としての総合的な方針を打ち出すリーダーシップを一層強化することが必要である。
- 他の類似機関、研究所、大学等とのネットワーク化と人事交流を一層進め、組織の活性化を図ることが必要である。また、共催展の在り方について今後検討することが必要である。

③特記事項(中期目標期間終了時の見直し作業、総務省からの指摘についての対応等)

- 法人が経営上のインセンティブを失うことのないよう、経営努力による剰余金が適正に認められるシステムやルール作りを制度官庁である総務省を中心に行うことが必要である。

独立行政法人国立博物館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【東京国立博物館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	B	A	A
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	B
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(小項目名)寄託件数 (東博は寄贈も含む)			B	B	A	A
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A
(小項目名)保存カルテ作成件数			B	A	A	A
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A
(小項目名)文化財修理等のデータベース化件数			B	A	A	A
(小項目名)修理件数(寄託品を含む)			A	A	A	A
(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	A	A	A	A
	(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数		A	A	A
(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	A	A	A	A
(小項目名)常設展入館者数	(小項目名)陳列替数	(小項目名)陳列替数	A	A	A	A
	(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数		A	A	A
(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 全体で評価	A A B A A -	A A A A A A A A	A A A A A A	A
(小項目名)特別展等入館者数 展覧会ごとの評価			A A B A A	A B A A A A A	A A A A A A	A A A A -

	(中項目名) 地方巡回展 (小項目名) 地方巡回展 入館者数			A A	B B	
(中項目名) 海外交流展 展覧会ごとの評価	(中項目名) 海外交流展 展覧会ごとの評価 (中項目名) 帰国展 (小項目名) 海外交流 展入館者数 展覧会ごとの評価 (小項目名) 帰国展 入館者数		A B		A A A - -	
(中項目名) 貸与・特別観覧の状況 (小項目名) 貸与件数 (小項目名) 特別観覧の件数			A A A	A A A	B B A	A A A
(中項目名) 調査研究の実施状況 (小項目名) 客員研究員招聘人数	(中項目名) 調査研究の実施状況 (小項目名) 客員研究員招聘人数 (小項目名) 研究誌 (MUSEUM発行) (小項目名) 研究員派遣 (小項目名) 海外研究者 招聘人数	(中項目名) 調査研究の実施状況 (小項目名) 客員研究員招聘人数 (小項目名) 研究誌 (MUSEUM発行) (小項目名) 研究員派遣 (小項目名) 海外研究者 招聘人数 (小項目名) 外国人研究員・研修生受入	A A A A A	A A A A A	A A A A A	A B A A A
(中項目名) 資料の収集及び公開(閲 覧)の状況 (中項目名) 広報活動の状況 (中項目名) 収蔵品の情報デジタル化 及びその活用状況 (小項目名) 出版件数 (小項目名) 収蔵品等のデジタル化 件数(画像) (小項目名) 収蔵品等のデジタル化 件数(文字) (小項目名) ホームページのアクセス件数	(中項目名) 博物館に関する情報の収集 及び公開の状況 (小項目名) 出版件数 (小項目名) 情報及び資料の収集 (小項目名) 収蔵品等のデジタル化 件数(画像) (小項目名) 収蔵品等のデジタル化 件数(文字)	(中項目名) 博物館に関する情報の収集 及び公開の状況 (小項目名) 出版件数 (小項目名) 情報及び資料の収集 (小項目名) 収蔵品等のデジタル化 件数(画像) (小項目名) 収蔵品等のデジタル化 件数(文字)	A A A A A A A A A	A A A A A A A A A	A A A A A A A A A	A A C C A A A A A
(中項目名) 講演会等の実施状況 (中項目名) 児童生徒を対象とした 講座等の実施状況 (中項目名) 友の会の活動状況 (小項目名) 児童生徒を対象とした 事業等の参加者数 (小項目名) 月例講演会 回数 (小項目名) 記念講演 回数 (小項目名) 夏期講座 回数	(中項目名) 講座・講演会等の実施状況 (小項目名) こどもミュージアム、 ワークショップ等 (小項目名) 子供向け美術鑑賞講座 (小項目名) 子供向け美術体験学習	(中項目名) 講座・講演会等の実施状況 (小項目名) こどもミュージアム、 ワークショップ等 (小項目名) 子供向け美術鑑賞講座 (小項目名) 子供向け美術体験学習	A A B A A A A A A A	A A A A A A A A A A	A A A A A A A A A A	A A A B A A A A A B

(小項目名)列品解説 回数			A	A	A	A
	(小項目名)公開講座 回数	(小項目名)公開講座 回数		A	A	A
	(小項目名)友の会会員中心の講演会			A	A	A
(小項目名)月例講演会 参加者数			A	A	A	A
(小項目名)記念講演 参加者数			A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 参加者数			C	B	C	C
(小項目名)列品解説 参加者数			A	A	A	A
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果	(小項目名)月例講演会等 アンケート	(小項目名)月例講演会等 アンケート	A	B	A	A
	(小項目名)記念講演会 アンケート	(小項目名)記念講演会 アンケート		B	B	B
	(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート		B	B	B
	(小項目名)公開講座 アンケート	(小項目名)公開講座 アンケート		B	A	A
(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	B	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			A			
(中項目名)大学等との連携の状況			A			
(小項目名)ボランティア受入人数	(小項目名)ボランティア受入人数	(小項目名)ボランティア受入人数	A	A	A	A
(小項目名)学芸担当職員の受入人数		(小項目名)博物館実習	B			A
(小項目名)大学生等の受入人数		(小項目名)インターンシップ	A			A
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	A	A
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A

独立行政法人国立博物館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別総表【京都国立博物館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	B	A	B
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	B
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(小項目名)寄託件数			A	A	A	A
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A
	(小項目名)保存カルテの作成件数				A	A
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A
(小項目名)文化財修理等のデータベース化件数			B	A	A	A
(小項目名)修理件数(寄託品を含む)			A	A	A	A
(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	A	A	A	B
	(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数		A	A	B
(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	A	A	A	A
(小項目名)常設展入館者数	(小項目名)陳列替数	(小項目名)陳列替数	B	A	A	A
	(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数		A	A	A
(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 全体で評価	B B A	A A A	A A A B	A
(小項目名)特別展等入館者数 展覧会ごとの評価			B C A	A A A	A A A A	A A B
(中項目名)地方巡回展			A	A		A
(小項目名)地方巡回展入館者数			A	B		A
(中項目名)海外交流展 展覧会ごとの評価			A A	A		
(中項目名)貸与・特別観覧の状況			A	A	A	A
(小項目名)貸与件数			A	A	A	A
(小項目名)特別観覧の件数			A	A	A	A

(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	A	A	A	A
(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	A	A	A	A
	(小項目名)海外研究者招聘人数	(小項目名)海外研究者招聘人数			C	A
	(小項目名)研究員派遣	(小項目名)研究員派遣			A	A
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A			
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A			
(小項目名)博物館だより出版件数	(小項目名)博物館だより出版件数	(小項目名)博物館だより出版件数	A	A	A	A
	(小項目名)情報及び資料の収集	(小項目名)情報及び資料の収集			B	A
(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数			A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A			
(中項目名)友の会の活動状況			B			
(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数	(小項目名)小学生向け作品解説シート	(小項目名)小学生向け作品解説シート	A	A	A	A
(小項目名)土曜講座 回数			A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 回数			A	A	A	A
(小項目名)土曜講座 参加者数			A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 参加者数			B	B	A	A
(小項目名)講演会等 アンケート	(小項目名)土曜講座 アンケート	(小項目名)土曜講座 アンケート	A	B	A	A
	(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート		B	A	A
(中項目名)研修の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	B	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			A			
(中項目名)大学等との連携の状況			A			
(小項目名)ボランティア受入件数			A	A	A	A
(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)博物館実習	A	A	B	A
		(小項目名)京都大学大学院 人間・環境学研究科				A
(中項目名)渉外活動の状況			B	B	B	A
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	B	A

独立行政法人国立博物館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別総表【奈良国立博物館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	B	A	A
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	B
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(小項目名)寄託件数			A	A	A	A
(中項目名)保管の状況	(中項目名)保管の状況	(中項目名)保管の状況	A	A	A	A
(小項目名)調査点検件数	(小項目名)保存カルテの作成件数	(小項目名)保存カルテの作成件数	B	A	A	A
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A
(小項目名)修理件数(寄託品を含む)			A	A	A	A
(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	A	A	A	A
	(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数		A	A	A
(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	A	A	A	A
(小項目名)常設展 入館者数	(小項目名)陳列替数	(小項目名)陳列替数	A	B	A	A
	(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数		A	A	A
(中項目名)特別展等 * 展覧会ごとに評価	(中項目名)特別展等 * 展覧会ごとに評価	(中項目名)特別展等 * 全体的に評価	A A	A A A	A A A	A
(小項目名)特別展 入館者数 * 展覧会ごとに評価			C A	A B A	A A A A	A B A A -
(中項目名)地方巡回展			B			
(小項目名)地方巡回展 入館者数			B			
	(中項目名)海外交流展	(中項目名)海外交流展			A A	-
	(小項目名)海外巡回展 入館者数	(小項目名)海外巡回展 入館者数			- -	-
(中項目名)貸与・特別観覧の状況			A	A	A	A
(小項目名)貸与件数			A	A	A	B
(中項目名)特別観覧の件数			A	A	A	A

(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	A	A	A	A
(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	A	A	A	A
	(小項目名)研究員派遣	(小項目名)研究員派遣		A	A	A
	(小項目名)海外研究者招聘人数	(小項目名)海外研究者招聘人数			B	A
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A			
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A			
(小項目名)博物館だより出版件数			A	A	A	A
(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数			A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A			
(中項目名)友の会の活動状況			B			
(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数	(小項目名)親と子の文化財教室		A	A	B	C
(小項目名)講座 回数	(小項目名)特別展等講座 回数	(小項目名)特別展等講座 回数	A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 回数			B	A	A	A
(小項目名)ギャラリートーク 回数			A	A	A	A
	(小項目名)友の会会員中心の講演会			A	A	
(小項目名)講座 参加者数	(小項目名)特別展等講座 参加者数	(小項目名)特別展等講座 参加者数	A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 参加者数	(小項目名)夏期講座 参加者数	(小項目名)夏期講座 参加者数	B	B	A	A
(小項目名)ギャラリートーク 参加者数	(小項目名)ギャラリートーク 参加者数	(小項目名)ギャラリートーク 参加者数	A	A	A	A
(小項目名)講演会等 アンケート	(小項目名)特別展等講座 アンケート	(小項目名)特別展等講座 アンケート	A	A	A	C
	(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート		A	A	A
(中項目名)研修の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	B	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			A			
(中項目名)大学等との連携の状況			A			
(小項目名)ボランティア受入件数			B	A	A	A
	(小項目名)ボランティアに対する研修	(小項目名)ボランティアに対する研修				A
(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	B	B	A	A
	(小項目名)放送大学の面接授業回数	(小項目名)放送大学の面接授業回数		A	A	A
	(小項目名)放送大学の面接授業人数	(小項目名)放送大学の面接授業人数		A	A	A
	(小項目名)奈良女子大学との連携講座(大学院生)	(小項目名)奈良女子大学との連携講座(大学院生)		A	A	A
	(小項目名)博物館実習	(小項目名)博物館実習				A
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	B	A
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A

独立行政法人国立博物館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別総表【九州国立博物館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)九州国立博物館(仮称)開館への準備状況			A	A	A	A

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
収入						支出					
運営費交付金	4,612	4,688	5,128	5,955		運営事業費	4,717	5,083	5,346	7,180	
施設整備費補助金	184	308	39	2,159		人件費	1,988	2,154	2,181	2,345	
展示事業収入	698	939	917	995		業務経費	2,729	2,929	3,165	4,835	
その他寄附金等	30	50	41	51		一般管理費	484	403	628	664	
						展覧事業費	1,813	1,932	1,714	2,581	
						調査研究事業費	386	372	407	573	
						教育普及事業費	34	52	84	114	
						九州国立博物館(仮称)設立等準備事業費	12	170	332	903	
						施設整備費	184	308	39	2,158	
計	5,524	5,985	6,125	9,160		計	4,901	5,391	5,385	9,338	

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
費用						収益					
経常経費	4,095	4,399	4,776	5,709		運営費交付金収益	3,331	3,684	4,001	4,166	
人件費	2,020	2,189	2,236	2,389		展示事業等の収入	665	898	917	1,062	
業務経費	2,075	2,210	2,540	3,320		寄付金収益	115	53	41	48	
一般管理費	538	498	580	563		資産見返負債戻入	112	122	122	138	
展覧事業費	1,019	1,022	1,154	1,480		臨時利益	0	33	0	0	
調査研究事業費	364	383	399	532							
教育普及事業費	31	53	85	101							
九州国立博物館(仮称)設立等準備事業費	11	132	201	507							
減価償却費	112	122	121	137							
臨時損失	0	46	12	0							
計	4,095	4,445	4,788	5,709		計	4,223	4,790	5,081	5,414	
						純利益	128	345	293	-295	
						目的積立金取崩額	0	0	21	295	
						総利益	128	345	314	0	

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	3,411	4,084	4,626	5,086		業務活動による収入	5,396	5,761	6,144	7,042	
投資活動による支出	1,043	1,782	1,249	2,312		運営費交付金による収入	4,612	4,688	5,128	5,955	
財務活動による支出	0	0	0	0		展示事業等による収入	784	1,073	1,016	1,087	
翌年度への繰越金	1,126	2,947	3,267	3,789		投資活動による収入	184	432	0	878	
						施設費による収入	184	432	0	878	
						財務活動による収入	0	1,494	51	0	
						前年度よりの繰越金	0	1,126	2,947	3,267	
計	5,580	8,813	9,142	11,187		計	5,580	8,813	9,142	11,187	

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資産						負債					
流動資産	2,680	3,045	3,370	5,221		流動負債	1,102	1,030	1,570	3,935	
固定資産	147,453	153,955	153,954	169,662		固定負債	656	845	867	1,213	
						負債合計	1,758	1,875	2,437	5,148	
						資本					
						資本金	71,563	72,692	72,692	86,247	
						資本剰余金	76,684	81,960	81,445	83,301	
						利益剰余金	128	473	750	187	
						(うち当期末処分利益)	128	345	314	0	
						資本合計	148,375	155,125	154,887	169,735	
資産合計	150,133	157,000	157,324	174,883		負債資本合計	150,133	157,000	157,324	174,883	

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
I 当期末処分利益					
当期総利益	128	345	314	0	
前期繰越欠損金	0	0	0	0	
II 利益処分額					
積立金	0	4	101	0	
独立行政法人通則法第44条第3項によ					
主務大臣の承認を受けた額	128	341	213	0	
業務拡充積立金	79	247	213	0	
施設改修積立金	49	94	0	0	

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:人)

職種※	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
定年制研究職員	85	87	92	97	94
任期制研究系職員	0	0	0	1	1
再任用研究系職員	0	0	1	0	0
定年制事務職員	82	88	88	91	93
任期制事務職員	0	0	0	0	0
再任用事務職員	0	0	0	0	1
定年制技能・労務職員	40	40	38	34	30
任期制技能・労務職員	0	0	0	0	0
再任用技能・労務職員	0	0	0	0	0
指定職相当職員	0	1	1	1	2

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

独立行政法人国立博物館に係る業務の実績に関する評価（平成16年度）

◎項目別評価
中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

- 段階的評価
「A」 中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
「B」 中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
「C」 中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。
「-」 評価しない。
○定量的評価
評価を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。

【東京国立博物館】

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評 定	評 定 定性的評価
		A	B	C			
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進 (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進 (4) 外部委託の推進 (5) 事務のOA化の推進 (6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>				<p>1 (1) 業務の一元化(本部)</p> <p>1 業務の効率化</p> <p>1) 省エネルギー等(リサイクル) (本部及び東京国立博物館)</p> <p>電気 使用量 8,612,080kwh (前年度比106.9%) 水道 使用量 63,143m³ (前年度比119.9%) ガス 使用量 897,043m³ (前年度比105.1%) 紙の使用量 10,676kg (前年度比95.6%) 廃棄物(一般) 133,050kg (前年度比110.4%) (産廃) 31,420kg (前年度比107.0%)</p> <p>2) 施設の有効利用 講堂等の利用 338件(有償貸付41件)、茶室の利用 128件(有償貸付44件) イベント等の施設利用 105件</p> <p>3) 外部委託の推進 海外からの来館者への対応をスムーズに行えるようインフォメーションカウンターでの案内業務4ポストを新規に外部委託した。外国語でのサービスも可能とし外国人向けサービスの向上を図った。また、お客様の安全確保と作品保全のため、展示室内の巡回警備(3回/日)を新規に外部委託し警備体制を強化した。 引き続き、本部事務局においては、顧問弁護士、監査法人による会計監査、会計システムアウトソーシング業務を外部委託している。東京国立博物館においては、清掃、警備、チケット売札、友の会受付、代表電話の電話交換、各種設備保守(防災設備、消防設備、特別高圧変電設備、空調自動制御機器、中央監視装置の夜間監視、冷凍機設備、ボイラー設備、ビル環境衛生管理、各所自動扉、エレベータ及びエスカレータ、電話交換機設備、自家発電設備、重油用地下タンク設備)を専門業者または台東区シルバー人材センターに外部委託している。その他にも、イベント受付、コンサートなどの会場設営など可能なものはその都度外部委託、あるいは、学生のアルバイトを雇用し実施している。 また、ボランティアへの業務委託として各種の展示・施設案内、茶会などのイベント、無償配布する資料の作成等が実施されており、ボランティアによる無償での業務協力は、館の運営上も多大な恩恵を受けているものといえる。</p> <p>4) OA化の推進 年度末に館内LANの端末パソコン、サーバー等を全体的に更新し、職員のニーズに沿った新ソフトも導入してセキュリティ強化と効率的に業務を実施する環境を整えた。また人事システムを導入し17年度より使用を開始する。</p> <p>5) 一般競争入札の推進 一般競争入札件数 14件(契約金額 200万円以上) (前年度実績10件)。前年度に引き続き設備保守の9件の一般競争入札と、新たに文化財画像情報総合管理システム開発、桌上型コンピュータ、サーバコンピュータ機器等、ノートパソコン、パソコン用ソフト購入の一般競争入札を実施した。企業等の契約手法の研究を実施し、次期中期計画開始時からの長期契約の導入など契約方法の変更を検討中である。</p> <p>2 事業評価の実施及び職員の意識改善</p> <p>1) 評議員会、運営会議 開催回数 評議員会 (館の運営に関する重要事項について審議を行うとともに館長に助言することを任務とする) 2回 運営会議 (博物館の円滑な運営を図ることを目的として館長以下幹部職員で構成されおよそ月2回程度開催している) 22回</p> <p>2) 研修の実施 ①東京国立博物館主催の研修の実施 「新任職員研修」 ②法人本部が主催する研修への参加 「新任職員研修会」「職員啓発研修会(放送大学授業科目履修)」「メンタルヘルズ講習会」「研究職員研修」「接遇研修」</p>	A	<p>来館者の増加に伴い、経費が増加している点が認められ、ボランティアの協力に恩恵を受けていることもあるが、施設の有効利用や外部委託の推進等による効率化を促進していることを評価できる。なお、評議員会・運営委員会の方針に沿って、組織・事務・事業等の見直しを推進し、さらなる組織の活性化を図ることが望まれる。 また、施設等の耐震化については、ナショナル・ミュージアムとして不可欠である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 国民の宝である文化財を管理している施設であるということも十分に考慮し、館の明確な方針を提示した上で、施設利用の効率化や外部委託の推進を図ることが必要である。 また、ボランティアの能力や希望を考慮し、業務効率を上げるため、有効な活用について引き続き柔軟な検討がなされるべきである。</p>
	<p>効率化の達成率 (本部・九博(仮称)準備室含む)</p>	<p>1.5% 以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0% 未満</p>	<p>1.0% 算式 効率化率=(見積予算額-決算額)÷見積予算額 =[(予算額÷0.99)-決算額]÷(予算額÷0.99) =[(2,804,177,003÷0.99)-2,804,177,003]÷(2,804,177,003÷0.99)=0.0100 運営費交付金予算額 2,804,177,003円、効率化した額 28,325,020円</p>	B	

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	評定	
		A	B	C		段階的評定	定性的評定
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術及び考古資料等を収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>文化財の収集（購入・寄贈・寄託）の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1) 購入 22件（重要文化財2件）</p> <p>2) 寄贈 18件</p> <p>3) 寄託 2,451件（国宝62件、重要文化財326件）</p>	<p>2,451件</p>	A	<p>中期計画に沿って順調な成果を上げている。また、長年の信頼関係によって寄贈を受けている点も、館の日常の努力を高く評価したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>寄贈のさらなる拡大のため、文化庁と連携して税制上の改善が望まれる。また寄託品の返却や寄託料徴収の検討については、館の立場としてだけでなく、法人全体の活動を考慮した判断が必要である。また、文化庁購入品の活用については、文化庁と十分協議する必要がある。</p>	
	寄託件数	2,400件以上	1,680件以上 2,400件未満	1,680件未満	2,451件	A	
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)代替燻蒸法導入 二酸化炭素法、低酸素濃度法、酸化エチレン等による燻蒸法を検討し、当初導入として二酸化炭素法による施工を実施した。</p> <p>(2)保存環境の望ましい在り方 文化財公開の際の指針、平成館特別展示空調運転の最適化、収蔵庫内及び展示室における地震対策、収蔵庫内の収納棚整備、列品の保存箱整備、劣化したフィルムの保管方法等について検討した。</p> <p>(3)環境データの解析・蓄積 温湿度測定、生物生息調査、空気環境調査を実施し、展示・保存環境の現状認識とその評価を行うためのデータの解析と蓄積を行った。温湿度測定は248箇所（空調監視用センサー100点、データロガー118点、毛髪温湿度計60点）、生物生息調査は1回（206箇所）、空気環境調査は屋内外1回（16箇所）実施した。</p> <p>(4)列品登録 従来の統計に上げられていた当館収蔵の「歴史資料」約2万件は、法人の分類基準によれば「歴史資料」と「和書」を含み、かつその大部分は正式の列品ではなかった。平成13年度法人化を契機として、従前、美術展示になじまないとしていた歴史資料を、幅広い資産活用の観点から展示に活用することとし、資料課を設置し（現在は、列品課）、これを正式の列品として登録するための整理作業を進めてきた。16年度に、そのうちの和書455件の整理が完了し、これを列品に編入した。今後も博物館学の視点により整理を進め、これまでの整理の成果として17年度に展覧している「日本の博物館学シリーズ」「森鷗外と帝室博物館」、「上野の山と東京国立博物館」のような歴史資料の展示の充実を図っていく。</p> <p>なお16年度から収蔵品の統計で、「歴史資料」と「和書」の項目にはそれぞれ正式の列品の数だけを記し、まだ列品に編入されていない資料については「準歴史資料（含む和書）」の項目にその数を記すことにし、正式列品と列品化作業中の資料を分けて表示することとした。</p> <p>(5)保存カルテの共通規格化 第1段階として、共通項目の中から各館が必要項目を選択する方法、共通に使用する86種の項目について検討した。</p> <p>(6)空調稼働時と休止時の影響 温湿度変化と空調運転との関係について、各館の実態を点検した。古い空調システムでは、運転開始と共に温湿度環境に大きな変化が生じ、本来の目的である温湿度の安定を維持することが困難であることが確認された。</p> <p>(7)保存カルテの作成 列品賞与の点検時に476件、本格修理のための調査時に432件、応急修理の実施時に484件、合計1,392件の保存カルテを作成した。</p> <p>(8)保存環境の年次報告 表慶館、本館、東洋館、資料館、法隆寺宝物館、平成館、茶室等各施設の収蔵庫及び展示室等、全248箇所について行った温湿度測定結果をまとめ、各施設の評価を行い、年次報告を作成した。</p>	<p>1,392件</p>	A	<p>新改築・リニューアル等により、展示物・収蔵庫とも保存環境は良好であり、適正な管理のもとで保管が行われている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>環境データの解析・蓄積は重要であり、全館運動したデータとしていつでも確認できるシステムが必要である。また、日常業務の中で行われる施設の管理にあたって、それを活かした良好な保存環境を保つ、きめ細やかな配慮が必要である。</p>	
	保存カルテ作成件数	500件以上	350件以上 500件未満	350件未満	1,392件	A	
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。</p> <p>①緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。</p> <p>②長期寄託品等の修理を実施する。</p> <p>③伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>④文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。</p> <p>(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)修理・保存処理計画の検討 修理計画立案のため修理対象となる候補作品を選定するため、432件の作品を調査しカルテを作成した。当調査結果は、平成17年度以降の本格修理の検討に反映される。X線透過撮影、電子顕微鏡等科学的な調査手法も必要に応じて用いた。平成15年度実施した本格修理に関し、東京国立博物館文化財修理報告書Vを刊行した。</p> <p>(2)長期寄託品の修理 寄託品1件の本格修理を実施した。</p> <p>(3)作品の応急修理及び本格修理 応急修理484件、本格修理140件（内、東博経費71件、九博経費50件、考古相互活用経費19件）を実施した。経費の内訳は東博経費1億2千5百万円。九博経費1千16万円、考古相互貸借3百48万円である。</p> <p>(4)保存修復関係資料のデータベース化 データベース構築のために、平成15年度本格修理171件の修理内容についてデジタル化を実施した。</p>	<p>1,392件</p>	A	<p>保存状態調査を定期的に行ったことによって長期的な修理計画が可能となり、業務の充実に向けて前進した。また、保存修復関係を報告書にし、デジタル化を図ったことは評価できる。さらに、助成金の獲得に積極的に働きかけたことは大いに評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>修理技術の指導及び修理技術者の養成、修理実施のための体制の整備・充実が必要である。また、保存修復関係のデータベースは東京国立博物館だけでなく、法人全体</p>	

<p>充実に寄与する。</p>	<p>文化財修理等のデータベース化件数</p>	<p>130件以上</p>	<p>91件以上130件未満</p>	<p>91件未満</p>	<p>171件</p>	<p>A</p>	<p>の規格に統一すべきである。さらに助成や寄付につながるよう、一般への公表はより分かりやすく具体的な情報とすべきである。</p>
<p>2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。 (1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。 (東京国立博物館) 年3～5回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。 (1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度) (1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。 (1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実に資する観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度) なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。 (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>78万人以上</p>	<p>546,000人以上780,000人未満</p>	<p>152万7,677人</p>	<p>A</p>	<p>本館常設展示室のリニューアルによって、全体の展示イメージが変わって魅力度アップにつながる良いプロジェクトとなったことは大いに評価できる。 また、入館者総数が約153万人にのぼり、入館料収入も独立行政法人化後、初の4億円の大台に乗った。 【より良い事業とするための意見等】 法人の4館がそれぞれの特色を鮮明化するのであれば、他の3館とは異なる博物館的個性を検討する必要がある。 展示については、継続的な工夫を重ねる必要がある。また、補足展示や資料閲覧、ファミリー・コーナーなどを設け、来館者がイメージを膨らませ、余韻を楽しむことができるようにする検討も必要である。</p>
<p>常設展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) 常設展に関する企画立案の効率化 16年度は常設展の活性化を図るため、新設された文化財部展示課が中心となり、年度当初に常設展全体の年間計画を立案し、本館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館それぞれにおいて、企画性のある様々なテーマの展示を実施した。 ○陳列品総件数9,036件(うち国宝 345件、重要文化財 1,066件)、陳列替回数240回 (2) 本館常設展示のリニューアル 15年7月から本館2階の展示を、日本美術の流れを一望できる時代順の展示にするリニューアルを実施したが、時代を象徴するテーマを設定して、更にわかりやすい展示体系とし、常設展を一新させた。1階は、彫刻・工芸・民俗資料・歴史資料・近代の美術などの分野陳列とし、作品に応じたディスプレイ・照明で効果的な展示とした。本館1階第20室をリニューアルして新たに、明治以来の寄贈者を顕彰する寄贈者顕彰室を開設した。 (3) 特集陳列・特別公開等の実施 ・特集陳列等 ①東京国立博物館の名品として著名な作品、寄託されている名品の展示について、年間予定を明らかにして展示した。 ②近年の調査研究の成果など 学術的意義をも考慮した「五十嵐派の蔭絵」「中国宋代の彫漆」など様々なテーマの特集陳列を実施した。 ③本館において「平成15年度新収品」、「慈雲の書」、「東京国立博物館コレクションの保存と修理—平成15年度修理作品」、東洋館において中国・宋元時代の中国書画の名品を特集する「中国書画精華」など様々な分野にわたる特集陳列を実施した。 ④正月2日からの開館に合わせて、干支にちなんだ特集陳列「酉・鳥・とり」を行い、「色絵飛鳳文輪花鉢」(重要美術品)、伊藤若冲筆「松梅群鶏図屏風」等の名品を展示した。この企画は、14年度より実施した「博物館に初もうで」に続く第3弾で、本年度は和太鼓演奏、江戸売り声、本館東洋館・法隆寺宝物館等を会場とする生け花(真生流)を実施し、新春の総合的企画とした。 ・特別公開 ①特別公開として、十七条憲法制定1400年記念特別公開「法隆寺国宝 夢違観音 一白 鳳文化の美の香り」(法隆寺宝物館宝物館)、薬師寺東京別院落慶記念 特別公開「国宝吉祥天画像」(表慶館)を実施した。 (4) 広報の充実 本館の大幅なリニューアルに際し、下記のとおり広報活動を展開した。 ターゲット：一般(一般の美術展愛好家、いままでも博物館に来たことのない人) 重点項目：これまで博物館に来たことのない日との来館のきっかけとする。 特記事項：・新しい層の開拓を目的として、タレント及び著名作家を起用した新聞広告、トークショーを実施した。 ・マスコミ各社との情報交換を密にし、各媒体を通しての広報を促進した。 ・外国人来館者増を目的として、外国人内見会および英字紙への広告掲載を行った。 ・学校での来館、特に「総合学習の時間」での常設展の活用を促進するために教員内見会を実施した。 ・企業とのタイアップにより10段の新聞広告を制作した。 (5) アンケート結果 ①本館グランドオープン 調査期間 会期中(平成16年9月1日(水)～10月31日(日)) 調査方法 観覧者の任意記入回答形式 (アンケート記入用デスク・用紙・鉛筆を配置 場所：本館1階ロビー) アンケート回収数 1,029人</p>	<p>152万7,677人</p>	<p>546,000人以上780,000人未満</p>	<p>152万7,677人</p>	<p>A</p>	<p>中期計画に沿って展示室のリニューアルが支障なく実施され、他の博物館へ「良き手本」を示すこととなった。また、その効果によって目標の2倍近くの来館者があった。さらに、テーマ展示の国宝特別公開は充実した活動となり、評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 常設展示のリニューアルについては、今後とも一層のPRを進める必要がある。常設展は図録などが作成されないことから、その情報をデータベース化するなど記録を残すべきである。 また、来館者のニーズ調査によりサービスの向上を図ることは重要であるが、鑑賞教育の場として常設展を活用することを開始すべきである。</p>

				アンケート結果 とても良かった 27.7%(293件)、良かった 41.9%(423件)、ふつう 15.7%(156件)、あまり良くなかった 4.7%(45件)、良くなかった 4.5%(44件) 無回答 5.6%(68件) ②新春特別展示「博物館に初もうで」 調査期間 会期中(平成17年1月2日(日)～1月30日(日)) 調査方法 観覧者の任意記入回答形式 (アンケート記入用デスク・用紙・鉛筆を配置 場所:本館1階ロビー) アンケート回収数 256人 アンケート結果 とても良かった 29.4%(75件)、良かった 41.2%(106件)、ふつう 15.3%(39件)、あまり良くなかった 3.1(8件)、良くなかった 2.7%(7件) 無回答 8.2%(21件)	
陳列替数	180回以上	126回以上180回未満	126回未満	240回	A
陳列件数	8,000件以上	5,600件以上8,000件未満	5,600件未満	9,036件	A
特別展等	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	共催展 弘法大師入唐1200年記念「空海と高野山」 (1) 開会期間 16年4月6日～5月16日(37日間) (2) 会場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室 (3) 主催 東京国立博物館・高野山真言宗総本山金剛峯寺・財団法人高野山文化財保存会・NHK・NHKプロモーション 後援 文化庁 特別協賛 南海電気鉄道株式会社 協賛 日本写真印刷株式会社・三井住友海上火災保険株式会社・株式会社アテファクトリー 協力 日本通運・セラータムテクノロジ 制作協力 NHK きんきメディアプラン (4) 陳列品総件数 151件(うち国宝21件、重要文化財97件) (5) 入場料金 大人1,300円 大学生900円 高校生800円 小・中学生以下無料 (6) 展示会の内容 総本山金剛峯寺をはじめ、高野一山に花開いた仏教美術の中から151件の至宝を厳選して一堂に展覧し、弘法大師空海と高野山の歴史や文化を振り返った。 (7) 講演会等 2回 参加者数 693人 (8) アンケート 回収数 3,541件 アンケート結果 とても良い 52.2%(1,847件)、良い 32.3%(1,142件)、ふつう 8.2%(291件)、あまり良くない 1.6%(55件)、良くない 0.9%(32件)、無回答 4.9%(174件) 共催展 2005年日本国際博覧会開催記念展「世紀の祭典 万国博覧会の美術」～パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東西の名品」 (1) 開会期間 16年7月6日～8月29日(54日間) (2) 会場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室 (3) 共催 財団法人2005年日本国際博覧会協会 (4) 陳列品総件数 464件(うち重要文化財4件、海外借用196件) (5) 入場料金 大人1,300円 大学生900円 高校生800円 小・中学生以下無料 (6) 展示会の内容 幕末から20世紀初頭までの万国博覧会に出品された近代日本工芸と同時代の西洋絵画に焦点を当て、国内外464件の作品により、万国博覧会という場を通じて、近代日本と西洋との関わりを展覧した。 (7) 講演会等 2回 参加者数 577人 (8) アンケート 回収数 2,293件 アンケート結果 とても良い 47.6%(1,092件)、良い 33.8%(775件)、ふつう 10.7%(246件)、あまり良くない 2.9%(33件)、良くない 1.1%(48件)、無回答 4.3%(99件) 共催展 「中国国宝展」 (1) 開会期間 16年9月28日～11月28日(54日間) (2) 会場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室 (3) 主催 東京国立博物館・朝日新聞社・テレビ朝日・中国国家文物局・中国国家博物館(中国文物交流中心) (4) 陳列品総件数 164件 (5) 入場料金 大人1,300円 大学・高校生900円 小・中学生以下無料 (6) 展示会の内容 日本仏教文化にも大きな影響を与えた中国仏教美術の約1000年にわたる変遷と、中国考古学の新発見の中から近年の重要な成果に焦点をあて、164件の作品によって、中国文化の真髄を紹介した。 (7) 講演会等 2回 参加者数 440人 (8) アンケート 回収数 3,907件 アンケート結果 とても良い 39.7%(1,551件)、良い 38.3%(1,497件)、ふつう 13.2%(517件)、あまり良くない 1.4%(115件)、良くない 1.4%(53件)、無回答 4.5%(174件) 共催展 金堂平成大修理記念「唐招提寺展 国宝鑑真和上像と盧舎那仏展」 (1) 開会期間 17年1月12日～3月6日(49日間) (2) 会場 平成館2階特別展示室第1室～第4室 (3) 共催 東京国立博物館・唐招提寺・TBS・日本経済新聞社 (4) 陳列品総件数 16件<9点>(うち国宝12件、重要文化財1件)	A		

各特別展は出品内容の質が高く、目標を大幅に上回る来館者があった。ただし、「万国博覧会の美術展」については、展示作品が多く、ゆったりと快適に鑑賞できないという不満が残った。一方で、一点のみ展示の「踊るサテュロス」は独立行政法人として注目すべき試みであった。

【より良い事業とするための意見等】
混雑の予想されるものが多いため、来館者の整理・誘導・快適な鑑賞環境作り・鑑賞後のフォローアップ等のマニュアル作りを検討する必要がある。入場制限、予約制、時間指定の入場券、開館時間の延長などが考えられる。

			<p>(5) 入場料金 大人1,400円 大学生・高校生・専門学校生1,000円 小・中学生以下無料 (6) 展覧会の内容 本尊・盧舎那仏坐像を中心とする金堂と、鑑真和上像を核とする御影堂の再現をテーマとして、92点の宝物により、唐招提寺の歴史と美術を紹介した。 (7) 講演会等 3回 参加者数992人 (8) アンケート 回収数10,430件 アンケート結果 とても良い65.6%(6,840件)、良い23.3%(2,426件)、ふつう4.7%(490件)、あまり良くない1.9%(203件)、良くない1.1%(117件)、無回答3.4%(354件)</p> <p>共催展 「踊るサテュロス」 (1) 開会期間 17年2月19日～3月13日(23日間) (2) 会場 表慶館1階 中央ホール・第7室～第9室 (3) 主催 東京国立博物館・読売新聞社・愛知万博イタリア政府総代表 (4) 陳列品総件数 1件 (5) 入場料金 大人800円、大学・高校生600円、小・中学生無料 (6) 展覧会の内容 1998年にシチリア沖の海底から発見された古代ギリシャ彫刻の傑作・踊るサテュロス像1点を特別に公開した。合わせて大中小の同像の模造を手で触れられるように展示し、彫刻への理解を深める一助とした。 (7) 講演会等 1回 参加者数330人 (8) アンケート 回収数1,603件 アンケート結果 とても良い60.8%(975件)、良い28.9%(464件)、ふつう6.4%(102件)、あまり良くない1.7%(27件)、良くない0.7%(11件)、無回答1.5%(24件)</p>			
<p>(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。 (2)-2 国立博物館及び公私立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)</p>	<p>貸与・特別観覧の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1) 貸与・特別観覧 貸与 1,202件 特別観覧 2,469件 貸与の際、貸与先の博物館施設等の保存環境問題に関して、保存修復課が必要に応じて指導助言を行った。(18館)) 2) 考古相互貸与 貸与 49件 借用21件</p>	<p>A</p>	<p>中期計画に沿って、貸与・特別観覧ともに着実な成果をあげ、所蔵する文化財が内外に広く公開されることを進め、文化的面における国内交流と国際交流の促進に実をあげた。特に収蔵品のインターネット上での画像・関連資料の公開などは意義があった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 国民共有の財産である文化財の有効な活用の観点から、所蔵品の貸与にあたっては、作品の保存状態・展覧会の内容・展示施設の設備等を考慮した上で、できるだけ希望にに応じることが望まれる。特別観覧に関しては、学術研究・教育普及の観点から積極的に取り組む姿勢を示すことが必要である。なお、貸与件数の減少や相互貸借の問題など、今後の方向を検討する必要がある。</p>	
	<p>入館者数</p>					
	<p>共催展 弘法大師入唐1200年記念「空海と高野山」</p>	<p>200,000人以上</p>	<p>140,000人以上 200,000人未満</p>	<p>140,000人未満 27万878人</p>	<p>A</p>	
	<p>共催展 2005年日本国際博覧会開催記念展「世紀の祭典 万国博覧会の美術」～パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東西の名品</p>	<p>70,000人以上</p>	<p>9,000人以上 70,000人未満</p>	<p>9,000人未満 5万672人</p>	<p>A</p>	
	<p>共催展 「中国国宝展」</p>	<p>130,000人以上</p>	<p>91,000人以上 130,000人未満</p>	<p>91,000人未満 27万2,754人</p>	<p>A</p>	
	<p>共催展 金堂平成大修理記念「唐招提寺展 国宝鑑真和上像と盧舎那仏展」</p>	<p>130,000人以上</p>	<p>91,000人以上 130,000人未満</p>	<p>91,000人未満 40万2,921人</p>	<p>A</p>	
	<p>共催展 「踊るサテュロス」</p>			<p>7万3,914人</p>	<p>—</p>	

3 調査研究

(1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示・教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。

(東京国立博物館)
日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。

法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。

館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。

(京都国立博物館)
京都文化を中心にした文化財の調査研究を計画的に実施する。

神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。

修復文化財に関する調査研究を実施する。

(奈良国立博物館)
南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。

仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。

(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。

(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に

する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

調査研究の実施状況

法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。

客員研究員招聘人数	18人以上	13人以上18人未満	13人未満	14人	B
海外研究者招聘人数	10人以上	7人以上10人未満	7人未満	15人	A
外国人研究員・研修生の受け入れ	2人以上	1人	0人	2人	A
研究員派遣	2人以上	1人	1人未満	7人	A
研究誌（MUSEUMの発行）	6回	4回以上6回未満	4回未満	6回	A

4 教育普及

(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。

(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心が

博物館に関する情報の収集及び公開の状況

法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。

博物館に関する情報の収集及び公開の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。
---------------------	---

(1)-1

1 収蔵品の調査研究

- 法隆寺献納宝物に関する調査研究
- 歴史資料等に関する調査研究
- 館蔵狩野家模本の調査・研究
- 客員研究員等を招聘し収蔵品各分野に関しての共同調査及び研究
- 九州国立博物館常設展示のための歴史資料に関する九州国立博物館準備室との共同研究
- 加西市教育委員会の受託研究「東京国立博物館所蔵亀山古墳出土遺物の調査研究」を実施
- 博物館資料に関する情報記述及び共通検索の標準化に関する調査研究

2 展覧会のための調査研究

- 常設展では、研究員の長年の研究成果にもとづく特集陳列である「中国宋時代の彫漆」、「五十嵐派の蒔絵」、「慈雲の書」を開催し、そのカタログを制作した。
- 16年度開催された特別展「空海と高野山」「万国博覧会の美術」「中国国宝展」「唐招提寺展」においては、研究員による事前の入念な作品調査を実施し、その研究成果にもとづき、作品選定、展示構成を行った結果、いずれも質の高い内容とすることができた。それぞれの特別展において、最新の研究成果を展示及び図録の解説・論文等に反映させ、また、記念講演会等においても、それらの成果を分かりやすく発表した。特に「空海と高野山展」に関連して、院政期の仏画を代表する「応徳涅槃図」を東京文化財研究所と共同で超高精細デジタル撮影、蛍光撮影、近赤外撮影、蛍光エックス線撮影を実施し共同研究を行い、有機顔料使用箇所特定などの成果を上げた。
- 「唐招提寺展 国宝 鑑真和上像と盧舎那仏展」では、盧舎那仏の輸送に際して、当館で開催する展覧会としては初めて走行実験を行い、走行時の振動調査を行った。保存科学の先端技術を用いた実験を実施することにより、作品の保全等に万全を期した。

3 保存・修理に関する調査研究

温湿度、生物、空気汚染、振動、光など文化財の保存環境に関する基礎データの解析、列品のX線撮影、電子顕微鏡観察などによる保存状態の調査を通じて、文化財の保存修復に関する最適化の研究を実施している。特に、保存環境については以下の2点に注目し、実験を行った。

- 唐招提寺展に出陳された大型仏像彫刻（盧舎那仏）の輸送時における安全を図るため、梱包ケース、トラック、仏像ダミーなどを使用して現実スケールの走行実験を実施した。実験中のトラック、梱包ケース内、ダミーなど各所の振動・衝撃及び温湿度について精密な測定を行い、安全性を検証した。
- 有効な地震対策を検討するために、阪神淡路大震災、新潟県中越地震等の地震波を発生させる起震装置を使用して、各種の展示方法に関する安全性を検証した。

4 科学研究費補助金等による調査研究 12件

「歴史建造物における文化財の保存展示空間の再開発を目的とした理論の構築に関する研究」、「日本出土原始古代繊維製品の分析調査による発展的研究」等12件課題についての調査研究を実施した。

(1)-2

客員研究員・海外研究者との共同研究

- 客員研究員との共同研究 14件
- 海外研究者との共同研究
 - 海外研究者（15人）を招聘し、学術交流の推進を図った。
 - 海外研究者等の受入（2件）を実施し、学術交流の推進を図った。
 - 当館の研究員（延べ7人）を海外の博物館・美術館のシンポジウム等に派遣し、学術交流の推進を図った。
- パキスタン回教共和国ハザール地方のガンダーラ仏教寺院の伽藍配置と出土遺物に関する調査研究

(2)

シンポジウム・刊行物による調査研究成果の情報発信

- 16年度開催した特別展に関する調査研究成果を展覧会カタログとしてまとめた。
- 収蔵品等に関する調査研究成果を、MUSEUM、紀要、図版目録、研究図録、重要考古資料学術調査報告書、文化財修理報告、法隆寺献納宝物特別調査概報、ミュージアムサイエンス2004に発表した。
- 収蔵品等に関する調査研究成果に基づき一般を対象に、日本美術五十選（日・英）、ハンドブック（日・英）、考古ガイドブックとして刊行した。

(1)-1資料の収集及び公開

- 収集 件数 写真原板：7,162枚 図書：4,896冊 マイクロフィルム：133巻
- 公開
 - 公開場所 資料館（1階閲覧室）
 - 公開件数 利用者数 4,228人 閉架図書閲覧 2,776件
古文獻資料等のマイクロフィルムによる閲覧：530件
 - その他 「図書・写真の利用」の項目をトップページに設定したウェブサイト（ホームページ）の運用を開始した。

(5)-1広報活動の状況

A 中期計画に沿って、調査研究をほぼ順調に進められたことは評価できる。また、外部研究者との協力により研究を深めることができたことや客員研究員の受入を館の活動によく反映していることも評価できる。

【より良い事業とするための意見等】

教育展示の基礎研究や空間デザインの研究など、これまで本格的な研究がなされなかった分野について早急に調査研究を行い、館の運営に活用すべきである。また、調査結果のデータベース化を図り、公開を促進して、学術研究及び教育普及に寄与すべきである。さらに、科学研究費補助金等をはじめとする外部資金の獲得・導入になお一層努める必要がある。

そもそも館にとって、展覧会開催が研究活動の成果の発表の場なのか、あるいは教育活動なのか、また、展覧会図録が研究成果発表なのか、あるいは啓発手段なのかを検討すべきである。

					B
					A
					A
					A
					A

A 中期計画に沿って一定の成果をあげている。文化財写真資料の提供が容易になったことや、図書・写真の利用に関してウェブサイトの運用を開始したことは評価できる。

【より良い事業とするための意見等】

より多くの国民が東京国立博物館を利用できるよう、ウェブサイトでの案内の充実を図り、館の広報を一層推進することが望まれる。資料のIT化、デジタル対応を一

ら一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。

(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。

また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

情報及び資料の収集	3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	7,162件	A	
出版件数	6回以上	4回以上6回未満	4回未満	6回	A	
収蔵品等のデジタル化件数	画像	20,000枚以上	14,000枚以上 20,000枚未満	14,000枚未満	9,589枚	C
	文字	3,500,000字以上	2,450,000字以上 3,500,000字未満	2,450,000字未満	0字 (文字データについては、デジタル化する形式を見直し、既存のSGMLデータすべてについて、現行通用するXMLデータに変換する作業を行ったため、文字のデジタル化は行わなかった。)	C
ホームページのアクセス件数	783,320件以上	548,324件以上 783,320件未満	548,324件未満	220万9800件	A	

(1) 広報印刷物
①「東京国立博物館ニュース」(発行回数 6回 発行部数 各3万部)
②その他の広報印刷物
「東京国立博物館パンフレット」日本語版、多言語版(英語・独語・仏語・中国語・韓国語・スペイン語)
「本館フロアガイド」日本語版・英語版・韓国版・中国語版、「東洋館フロアガイド」日本語版・英語版・韓国語版・中国語版、「庭園散策マップ」

(5) - 2 ホームページのアクセス件数
15年度にリニューアルを行ったウェブサイト(ホームページ)の運用を行った(16年4月1日より一般公開)。アクセス件数220万9,800件(目標78万3,320件)。

(1) - 2 デジタル化の状況
(2) 文化財の画像情報のデジタル化及び基本情報のデータ化
・収蔵品等の写真の高精細デジタル化:1万枚(目標2万枚)
(文字データについてはデジタル化する形式を見直し、既存のSGMLデータすべてについて、現行通用するXMLデータに変換する作業を行ったため、文字のデジタル化は行わなかった。)
・収蔵品の基本情報のデータ化・文書記述言語(SGML化):これまでSGML形式で蓄積してきた収蔵品の基本データについて、今後の運用の便宜を考慮し、すべてXML形式に変換した。
・カラー写真の検索がより容易にできるように、画像検索システムの改善を図った。(開発委託)

(5) - 3 デジタル情報の有料提供
・使用申請件数247件、利用料収入1,934万9,001円

層推進すべきであるとともに、積極的に公開すべきである。

また、国立博物館の図書情報をNACSIS(図書館所蔵検索システム)に接続するよう、検討を要請したい。

(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。

また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

(東京国立博物館)
児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。

中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。

(京都国立博物館)
小中学生学習プログラム等について検討、実施する。

(奈良国立博物館)
親と子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。

修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。

(3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。

それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

講座・講習会等の実施状況
法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。

(2) - 1 児童生徒を対象とした事業
(1)「親と子のギャラリー」3回(3テーマ)
(2) 児童・生徒を対象とした美術鑑賞講座 4回(4テーマ)
(3) 児童・生徒を対象とした美術体験学習 19回(6テーマ)
(4) 小・中・高校生を対象とした体験プログラムの実施(児童・生徒ボランティア)
(参加者数 小学生10人 中学生10人 高校生18人 担当研究員数 延べ4人)
(5) 学校教育との連携
① 教員研修 参加者数 9人(8校)
② 特別展教員説明会・内見会 5回 計1,948人
③ 教員・教育委員会等の見学対応 受入件数7件 計28人
(6) その他
① 児童・生徒を対象としたボランティアによる解説及びツアー
② 法隆寺宝物館ワークショップ(小学校高学年～中学生向け)の作成・配布
③ 総合的な学習等の小・中・高の授業の見学対応
④ 大学生および一般の見学対応

(3) - 1 講演会等の事業
(1) 講演会 31回
① 月例講演会 12回(参加者総数 2,153人)
② 記念講演会 15回(参加者総数 4,136人)
③ テーマ別講演会 4回(参加者数 731人)
(2) 秋期講座(夏期講座) 2日 参加者数 403人
(3) 公開講座 10回(3テーマ)
(4) 列品解説(美術鑑賞講座) 40回(総参加者数2,882人)
(5) 展示等に関連する事業
① 特別公開「国宝 吉祥天画像」薬師寺僧侶による吉祥天の話(30回)、茶会(1,187人)
② 本館リニューアル 本館リレーレクチャー(6回・1,509人)、リニューアルレクチャートーク(2回・659人)
③ 留学生の日 講演会(2回・163人)
④ 「唐招提寺展」映画上映会(6回・1,669人)天平音楽再現(2回・745人)、石田録事がご案内するヴァーチャルリアリティ(2回・1,245人)、記念公開関係対話(158人)
⑤ 「踊るサテュロス」展 スペシャルサロン(3回・380人)
⑥ ホップステップ九博展 列品解説(6回、約171人)

(3) - 2 友の会の活動

児童生徒を対象とした活動や講演会・講座など様々な企画をたて、目標に即した活動が適切に実施された。特に、学校教育との連携において、学校教員に対する実務研修及び教員・教育委員会等の見学対応に具体的に取り組んだことなどは評価できる。

【より良い事業とするための意見】
家族で楽しく学べるファミリールーム・教員向けの資料や情報が集まり、教員同士の情報交換や授業へのアドバイスなどを受けることのできるティーチャーズルームなどの設置が望まれる。生徒児童を対象とする講座・講演会・ワークショップ等は、親子一緒に参加を考慮した企画を検討することが必要である。当面は児童生徒を対象とするワークショップが適当ではないか。また、一般観覧者にも配慮しつつ、教員等が展覧会場内で児童生徒に解説のできる方策を検討することも望まれる。ナショナルセンターとしての自覚に立って、学校教育との連携・博物館の独自性・生涯学習計画の策定などの一層の進展が必要である。

その他、友の会等の支援組織への参加者に対しては、参加形態の別に応じて相応しい付加価値を付けることを検討する必要がある。

また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。

					(1) 友の会及びバスポート 博物館に親しんでいただくことを目的とした「友の会」および観覧の利便性を重視した「バスポート」(一般・学生)を設置することにより、利用者のニーズに合わせたサービスを提供した。 会員数 友の会会員1,096人 バスポート会員(学生)12,682人(892人)	
					(2) 「友の会」対象の事業 ① 2ヶ月に一回の割合で博物館ニュースを送付するほか、博物館で実施するイベントの案内や、館主催のコンサート等のイベントを割引で鑑賞できるようにする等、サービスの充実へ努めた。 ② 講演会 3回 185人 ③ 東京国立博物館友の会対象旅行会 1回 19人	
こどもミュージアム、ワークショップ等		582人以上	407人以上 582人未満	407人未満	132,756人	A
子供向け美術鑑賞講座		6回以上	4回以上6回未満	4回未満	4回	B
子供向け美術体験学習		6回以上	4回以上6回未満	4回未満	19回	A
① 月例講演会等	回数	12回以上	8回以上12回未満	8回未満	12回	A
	人数	165人以上	116人以上 165人未満	116人未満	180人	A
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	83%	A
② 記念講演会	回数	6回以上	4回以上6回未満	4回未満	15回	A
	人数	3,151人以上	2,206人以上 3,151人未満	3,151人未満	4,051人	A
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	82%	B
③ 夏期講座	回数	3日以上	2日	2日未満	2日	B
	人数	337人以上	236人以上 337人未満	236人未満	206人	C
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	92%	B
④ 公開講座	回数	8回以上	6回以上8回未満	6回未満	10回	A
	アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	94%	A
⑤ 列品解説	回数	40回以上	28回以上40回未満	28回未満	41回	A
	人数	2,648人以上	1,854人以上 2,648人未満	1,854人未満	3,088人	A

(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。

(4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。

(4)-3 公私立博物館・美術館等の展示会の企画に対する援助・助言を推進する。

(4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。

(4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。

(6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展示会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。

なお、ボランティアの受け入れについて

研修等の取組み状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(4) - 1 研修の取組・公私立博物館への助言等 (1) 研修等への取組み ①学芸担当職員(キュレーター)研修 1件(鳥取県立博物館) ②教員研修 参加者数 9人(8校) (2) 公私立博物館・美術館等に対する指導・助言 52件 (4) - 3 大学等との連携 (1) 博物館実習 21人(21大学) (2) インターンシップ参加者数 15人(14大学) (3) 東京芸術大学学生ボランティア ギャラリートーク参加者数1,065人 (4) 大学の授業等の見学対応(全13日 受入総数538人(19大学)) (6) - 1 ボランティアの活用状況 (1) 生涯学習ボランティア(通年 参加者数154人) (2) 学生ボランティア(参加者数8人) (3) 児童・生徒ボランティア-3日間の博物館体験 ①小・中学生向け(夏休み期間のうち3日間 参加者数20人) ②高校生向け(夏休み期間のうち3日間 参加者数18人) (4) 東京芸術大学学生ボランティア(参加者数10人)	A
-----------	---	---	---

中期計画に沿って、研修・インターンシップなどは着実に成果をあげている。また、教員研修や大学との連携についての積極的な取組は評価できる。

【より良い事業とするための意見】
大学との連携に関しては、博物館実習の機会供与の実数を増やすより、大学院生を対象とするインターンシップの充実を図るべきである。実習生の受入については、期間を含め見直しを検討すべきである。
学校教育との関連・大学との連携・ボランティアの任務と役割など、博物館の教育機能とどのように運動させるのかの基本方針を策定する段階である。
公立美術館・博物館への指定管理者制度導入により、経営、運営に種々の問題が生じ、国立博物館へ指導・助言・相談を行う事例が多くなると予想されるので、積極的な対応を行うことが求められる。

<p>は、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延入数の確保に努める。</p>			<p>(5) 教員ボランティア(参加者数 6人)</p>		
<p>(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) 東京国立博物館賛助会員 ① 会員数 特別会員17団体 維持会員18団体・個人49人 ② 会員対象の特別鑑賞会等の実施 特別展内覧会 5回 事業報告会 1回 (3) デジタル画像の有料提供事業(大日本印刷株式会社(DNP)との連携)の拡大 使用申請件数247件・利用料収入1,934万9,001円 (4) イベントの開催等による施設の有効活用(計55件) ・博物館に親しんでもらうため、「初夏に贈る名曲の調べ」等38件のイベントを主催事業として実施した。 ・施設の有効活用および博物館の周知を目的として、企業が主催するイベント17件に会場を提供した。うち外国企業への貸出も2件あり、外国人への認識を深めた。 (5) 地域事業への参加協力 ・「上野のれん会」に加入し、ポスター掲示、チラシ・割引券等の配布、広報誌「うえの」への展覧会情報掲載などを実施した。 ・東京都「上野地区観光まちづくり」へ参画し、「上野地区観光まちづくり基本構想」策定に協力した。 ・台東区主催の「東京国立博物館に学ぶ日本文化講座」に協力した ・台東区主催の「伝統工芸職人展」に協力した。 ・台東区教育委員会と連携し、東京学芸大学教授山田有策氏による文学講演会を開催した。</p>	<p>A</p>	<p>渉外活動には積極的に取り組み、一定の成果を上げた。財政的基盤の充実を目指し、渉外事業に対応すべく、組織の改編をするなどの姿勢が示された。特に、イベントの開催、賛助会員制の確立と会員の拡大等に取り組んだことなどは評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 運営基盤を確かなものとするためには、渉外活動のより一層の充実が必須である。施設の有効活用・賛助会員制の確立と会員の拡大には、より良い事業の展開を期待する。その一方で、博物館における渉外には、文化機関としての自覚も望まれる。</p>
<p>6 その他の入館者サービス (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的を実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。 (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) - 1・2 (1)・(2) 来館者の意見を反映した環境の改善・展示施設等の改善に関する調査・研究 ① 平成館の回転扉及び本館の正面玄関2箇所、地下1階トイレ扉を自動扉とし、エレベータ2基に音声による案内と点字の階数表示を、又、各館の階段に手すりを設けると共に表慶館階段部分には踏み防止のための傾斜ステップを設置した。 ② 庭園解放にあわせて、樹木剪定、灌木類の植栽をし、茶室の内外装もリフレッシュした。 ③ 本館では観覧者用トイレの衛生面の改善、平成館ラウンジの椅子・テーブルの一部を更新した。 (1) - 3 (3) 入館者サービスの向上 ① 本館・平成館のインフォメーションカウンターへは、外部委託により外国語のできる者を常時配置するようにした。 ② 渉外課において、お客様より寄せられる意見や苦情の収集および対応を総括することとした。又、意見苦情の対処制度を整備すると共に、館員の接客態度を向上を図るため、接遇研修を実施した。又、常設展・特別展・共催展における入館者アンケートの実施と調査結果の展示等への反映に取組んだ。 (1) - 4 (4) 音声ガイド・展示解説の充実 ① 音声ガイドの貸出を4件の特別展で実施した。(使用料：一律500円 利用数：計20万4,752台) (2) (5) 柔軟な博物館展示活動等の展開 ① 4月～9月の土曜、日曜、祝日の開館時間を1時間延長した。 ② ゴーデンウィーク・夏休み期間中の月曜日を閉館した。又、年始は、1月2日を閉館し、夜間開館(開館時間の20時までの延長)を特別展期間中4月～11月の金曜日に行った。(夜間開館の開催日数23日、入館者数1万6,452人) ③ 庭園を春(3月13日～4月18日)および秋(10月26日～11月30日)に開放し、上野観光連盟と上野商店街連合会で発行しているさくらマップに、庭園についての情報を掲載してもらった。便殿(7月と8月を除く第1・第3土曜日)並びに、黒門(土・日曜日、祝・休日)を一般に公開した。 ④ 日没から21時まで本館・表慶館・黒門のライトアップを行った(休館日以外毎日) ⑤ 11月の第一土曜日を「留学生の日」として留学生の常設展観覧料を無料としたほか、各種イベントを実施した。対象者を、各国公私立大学、各国公私立高等専門学校、各専修学校の留学生に加え、16年度より各種学校、外国語指導助手にも拡大し、多様なイベントを実施した。 ⑥ 東京都主催の「ウエルカムカード」に参加し、2,277人の利用を得た。また、共催展ホームページにおける割引券の提供を実施した。 ⑦ 小中学生の特別展の観覧料を無料とした。 ⑧ 東京メトロとの提携により期間限定の東京メトロオープンチケット利用者への割引(常設展80円引き、特別展100円引き)を図り159人の利用があった。 ⑨ 会期が一部重なるサテュロス展と中宮寺展でのセット割引料金を設定した。 (6) ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ① 「ミュージアムショップ活性化懇談会」を設置し、商品開発等の検討を開始した。 ② 東洋館にミュージアムショップをオープンさせた。 ③ 気軽に飲食できるスペースとして、「中国国宝展」にあわせカフェ(東洋館1・2階)をオープンさせ、レストランでは特別展・共催展に合わせたメニューを企画した。前庭にて臨時の店(お茶、和菓子提供)を設置した。</p>	<p>A</p>	<p>中期計画に沿い、1月2日の開館・夜間開館日の増・土日祝日の開館時間の延長・庭園開放・ライトアップ・バリアフリー対策トイレ改装など、入館者サービスの向上に向かって多様な施策を打ち出した努力を評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 グッズなどのデザインや開発にもっと新しいアイデアや感覚を盛り込むことが望まれる。同時に、その広報も必要である。また、高齢者の利用者が毎年多くなっていることを考慮し、施設利用や顧客サービス全般にわたるより細やかな調査を行うことが望まれる。 なお、サービス業者などに評価してもらうことも考えられる。</p>

【京都国立博物館】

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評定	評 定 定性的評定
		A	B	C			
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当し	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1業務の効率化 (2) 省エネルギー等(リサイクル) 電気 使用量 2,052,921KWh (前年比 93.43%)	B	施設の有効利用、O A化の推進、研修等による職員のサービス意識向上を目指す努力により、効率化が進んでいることは評価

<p>て行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員への理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>水道 使用量 15,384m³ (前年比 72.69%)</p> <p>ガス 使用量 174,106m³ (前年比 81.39%)</p> <p>紙 使用量 2,082Kg (前年比 102.56%)</p> <p>廃棄物(一般) 26,651Kg (前年比 106.38%)</p> <p>(産廃) 352Kg (前年比 5.23%)</p> <p>(3) 施設の有効利用</p> <p>講堂の利用 73件 (7,194人) (有償貸付 7件)</p> <p>茶室の利用 18件 (292人) (有償貸付 17件)</p> <p>イベントによる利用 12件 (5,836人)</p> <p>敷地の利用 8件 (約114人) (有償貸付 8件)</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>警備業務の一部、陳列館等の清掃、蔵書データ修正作業、館用車運転業務、現金輸送、各種設備の保守業務等の外部委託を実施。</p> <p>(5) OA化の推進</p> <p>館内のLANを活用し、通知・連絡事項等を行いペーパーレス化を図った。</p> <p>(6) 一般競争入札の推進</p> <p>一般競争入札件数 9件 (契約金額 200万円以上) (15年度 9件)</p> <p>2 事業評価の実施及び職員の意識改善</p> <p>1) 評議員会・文化財修理所運営委員会・運営会議等</p> <p>①評議員会 開催回数 2回 議事内容 運営に関する重要事項を審議</p> <p>②文化財保存修理所運営委員会 開催回数 1回 審議内容 文化財保存修理所の管理運営に関する重要事項を審議</p> <p>③運営会議 開催回数 25回 審議内容 事業計画、列品の貸出し及びその他館の運営等を審議</p> <p>④建設事業小委員会 開催回数 8回 審議内容 平常展示館建替え(百年記念館(仮称))に関する重要事項を審議</p> <p>⑤将来構想検討委員会 開催回数 1回 審議内容 平常展示館建替え(百年記念館(仮称))に関する重要事項を審議</p> <p>2) 研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任研修会(4月8日) ・普通救命講習会(4月12日・19日) ・職員研修会(6月14日) ・当館産業医による職員対象の健康教育(講演)(7月6日) ・接遇マナー研修(10月4日) 	<p>1. 0%</p> <p>算式 効率化率 = (見積予算額 - 決算額) ÷ 見積予算額</p> <p>= [(予算額 ÷ 0.99) - 決算額] ÷ (予算額 ÷ 0.99)</p> <p>= [(1,001,928,668 ÷ 0.99) - 1,001,926,668] ÷ (1,001,926,668 ÷ 0.99) = 0.0100</p> <p>運営費交付金予算額 1,001,926,668円、効率化した額 10,221,481円</p>	<p>できる。施設の耐震化について予算計上することは、ナショナル・ミュージアムとして必要不可欠と考えられる。また、外部意見を積極的に取り入れた組織運営を図ることが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>施設の有効利用の一層の促進が望まれる。施設利用の効率化並びに外部委託の推進にあたっては、文化財を管理する施設であることを十分に考慮しつつ、取り組むことが必要である。</p>
	<p>効率化の達成率</p> <p>1.5%以上</p> <p>1.0%以上 1.5%未満</p> <p>1.0%未満</p>	<p>B</p>	

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評定	評定 定性的評定
		A	B	C			
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(京都国立博物館)</p> <p>京都文化を中心とした美術及び考古資料の積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況</p> <p>寄託件数</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>6,000件以上</p> <p>4,200件以上 6,000件未満</p> <p>4,200件未満</p>	<p>1 収集・保管</p> <p>1) 購入</p> <p>件数 40件 (うち重要文化財 1件 重要美術品 2件)</p> <p>分野別内訳 絵画 6件、書跡 2件、金工 12件、染織 11件、考古 8件、漆工 1件</p> <p>2) 寄贈 3件</p> <p>3) 寄託 6,142件 (うち国宝 83件、重要文化財 628件)</p> <p>6,142件</p>	<p>A</p> <p>系統的収集が着実になされ、良質な収蔵品が増加していることを評価できる。また、寄託品の件数の維持についても、日頃の地道な調査や関連諸社寺や個人との良好な関係を築いていることが反映されている。さらなる努力により、寄贈品及び寄託品の件数を増やし、文化財の保護並びに展示の充実を図ることが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>所蔵品については得意分野を最優先とした館の魅力作りを行うべきである。4館で所蔵品の交換を行い、より明確な方向性を打ち出すのも、限られた予算を活かす一つの方法ではないか。</p> <p>また、寄贈のさらなる拡大のため、文化庁と連携して税制上の改善が望まれる。また、寄託品の返却や寄託料徴収の検討については、館の立場としてだけでなく、法人全体の活動を考慮した判断が必要である。また、文化庁購入品の活用については、文化庁と十分協議する必要がある。</p>			

<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2)-1 温湿度 ①特別展示館 A 展覧会場 空調実施時間 9:00~18:00 温度 22℃ 湿度 57~60% 注) 展覧会によって設定は異なる。 * 入館者が入ったときの温湿度管理について 出入口及び中扉を極力閉鎖し、外気の遮断を図っている。従来出入口に加え、自動ドアにより、温湿度変化の緩和を図った。 * 24時間空調を行わない理由 閉館時間以外は外気進入の要因である人の出入りがないため。 B 収蔵庫 空調実施時間 9:00~17:30 温度 22~24℃ 湿度 58~61% ②平常展示館 A 展覧会場 空調実施時間 9:00~17:30 温度 22~24℃ 湿度 58~61% * 入館者が入ったときの温湿度管理について 出入口及び中扉を極力閉鎖し、外気の遮断を図っている。 B 収蔵庫 空調実施時間 9:00~17:30 温度 18~22℃ 湿度 56~60℃ ③北収蔵庫 空調実施時間 9:00~17:30 温度 20℃ 湿度 60% ④東収蔵庫 空調実施時間 9:00~17:30 温度 20℃ 湿度 60% ⑤文化財保存修理所 空調実施時間 9:00~17:30 温度 20~22℃ 湿度 58~60% * 修理作品、修理作業状況に応じて、個別に加湿器、むろ(湿度を保持するためのビニルハウス)等にて調整を行い、適正な環境管理を実施した。 ⑥照明 展示ケース及び収蔵庫は、紫外線防止の蛍光灯を使用 ⑦空気汚染 定期的にフィルターを交換 平常展示館：ビル管理法に基づく測定は、2ヶ月ごとに実施 (温度、湿度、CO2、騒音、風速、塵埃) ⑧防災 ・自動火災報知器 24時間監視 ・総合防災訓練の実施 ⑨防犯 赤外線レーザー、赤外線感センサー、テレビカメラ 24時間監視</p> <p>(2)-2 保存カルテ 作成件数 124件(目標 100件)</p>	<p>A</p>	<p>適正な管理のもとで保管が行われた。保存カルテの充実を目指し、所蔵作品のより安全な管理に努めることが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 本館の建設、耐震化の検討が必要である。特に文化財保存修理所の改築は急務といえる。文化財保存修理所の改築にあたっては、文化財の修理・保管に対する一般の人々の関心や理解を高めるため、その作業内容などの広報を考えるべきである。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 ①緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画 ③伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 ④文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。</p> <p>(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実へ寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(3)-1 ①修理件数 絵画 14件 漆工 1件 計 15件 ④データベース 1,242件(目標 250件) (3)-2 修理業者への指導 ・定期的に文化財保存修理所の各工房への巡回を行い、適切な指導、助言を行った。 ・(財)日本国際協カセンターによる「文化財修復整備技術コース」研修会で講師として協力した。</p>	<p>A</p>	<p>適切な修理保存計画のもとで、業務が遂行された。修理費用を寄付金として獲得することは、館に対する信用と努力の表れであり、評価できる。今後とも展覧会の鑑賞や講座を通じ、館の事業について紹介を積極的に行うべきである。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 文化財の保護や修復について来館者の理解を深めるようにすべきである。個人から修理のための多額な寄付が行われたことについて、積極的に広報し、寄付の在り方についての好例として、広く認知されるように努力すべきである。 また、文化財保存修理所の施設及び設備の整備を図り、より安全な修理環境のなかで作業ができる体制を構築することが必要である。</p>
<p>2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。 (1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>2 公衆への観覧 1) 常設展 ・開館期間 16年4月1日~17年3月31日(311日間 常設展示のみの開催期間200日) ・陳列替回数 延べ57回 ・陳列品総件数 2,117件 ・特集陳列 11件 2) 特別展・共催展 3回 ①南禅寺</p>	<p>B</p>	<p>常設展、特別展ともに質が高く、京都らしい展示であったが、入館者数、入場料収入は目標に達しなかったため、今後の企画や広報の在り方を十分に検討することが必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 新しい観客層を開拓し、平常展示の充実、</p>

とする展示を実施する。

(1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

(東京国立博物館)
年3～5回程度

(京都国立博物館)
年2～3回程度

(奈良国立博物館)
年2～3回程度

(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施し、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。

(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)

(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。

(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度)

なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。

(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

				②神々の美の世界—京都の神道美術— ③古写経—聖なる文字の世界— 3) 総入館者数 26万9,111人		
	入館者数	306,000人以上	214,000人以上 306,000人未満	214,000人未満 0人未満	26万9,111人	
常設展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1) 開催期間 16年4月1日～17年3月31日(311日間) 平常展のみの開催期間 200日間 2) 会場 平常展示館 1階、2階 3) 陳列品総件数 2,117件(うち国宝 52件、重要文化財 301件、重要美術品 39件) 4) 陳列替回数 57回 5) 入場料金 大人420円(210円)、大・高生130円(70円)、中・小学生 無料 *()内は、団体 6) 特集陳列 11件 7) アンケート調査 ① 調査期間 通年 ② 調査方法 記入方式 ③ アンケート回収数 846件 ④ アンケート結果 ・とても良い 44%(366件)・良い 29%(246件)・普通 16%(132件)・あまり良くない 2%(21件)・良くない 4%(37件)				
	陳列替数	50回以上	35回以上 50回未満	35回未満	57回	
	陳列件数	2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	2,117件	
特別展等	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	共催展 「亀山法皇700年御忌記念 南禅寺」展 1) 開催期間 16年4月6日～5月16日 2) 会場 特別展示館 3) 主催 京都国立博物館、大本山南禅寺、朝日新聞社、朝日放送 後援 文化庁 協賛 凸版印刷 協力 日本香堂 4) 陳列品総件数 130件(うち国宝4件、重要文化財41件) 5) 入場料金 大人1,200円(1,000円)、大・高生800円(600円)、中・小学生400円(200円) *()内は、団体 6) 展覧会の内容 亀山法皇御忌700年を記念して、南禅寺の文化財を展示 7) 講演会等 6件 8) アンケート調査 アンケート回収数 761件 アンケート結果 ・良い 60%(460件)・まあまあ良い 32%(241件)・どちらともいえない 4%(29件)・あまり良くない 1%(11件)・良くない 1%(8件)				
		共催展 「神々の美の世界—京都の神道美術—」展 1) 開催期間 16年8月10日～9月20日 2) 会場 特別展示館 3) 主催 京都国立博物館、京都府神道青年会、産経新聞社、関西テレビ放送 後援 本社本庁、京都府神社庁、京都府神社総代会、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市観光協会、サンケイスポーツ、タカフジ、サンケイリビング新聞社、フジサンケイビジネスアイ、京都新聞社、KBS京都、京都チャンネル、ラジオ大阪 協賛 京都国際文化交流財団、ダイードリノコ、大日本印刷 協力 京都銀行、武田病院グループ、福寿園、レインボー 4) 陳列品総件数 120件(国宝4件、重要文化財37件、重要美術品1件) 5) 入場料金 大人1,200円(900円)、大・高生800円(500円)、中・小学生400円(200円) *()内は、団体 6) 展覧会の内容 青年会創立50周年を記念するもので、京都府下の神社が秘蔵する国宝や重要文化財などのご神宝が一堂に会する初めての試みである。 7) 講演会等 7件 8) アンケート調査 7件 ① 調査期間 16年8月10日～9月20日 ② 調査方法 記入式 ③ アンケート回収数 983件 ④ アンケート結果 ・良い 55%(529件)・まあまあ良い 35%(348件)・どちらともいえない 6%(62件)・あまり良くない 2%(23件)・良くない 1%(10件)				
		特別展 「古写経—聖なる文字の世界—」展 1) 開催期間 16年10月19日～11月28日 2) 会場 特別展示館 3) 主催 京都国立博物館 後援 書学書道史学会 広報協力 毎日新聞社、毎日放送 協力 岡村印刷工業株式会社、啓星製紙(株)、トリ・パイン トレーディング(株)、(株)竹尾 4) 陳列品総件数 162件(うち国宝27件、重要文化財69件) 5) 入場料金 大人1,000円(700円)、大・高生700円(400円)、中・小学生300円(150円) *()内は、団体 6) 展覧会の内容 当館が我が国屈指の古写経コレクションである守屋孝蔵氏収集の古写経268件の寄贈を受けて丸				

	特別展、特別陳列の企画・運営についての柔軟な対応、外部研究者の活用、ゲスト・キュレーターへの委嘱等について検討すべきである。
	特集陳列に工夫が凝らされたことを評価する。新しいテーマへの取組もあり、幅広い展示計画の実現が期待されるが、問題点もある。館や設備の老朽化など、やむを得ない事情もあるが、広報面の努力や常設展示室の全体的な印象を改善する細かな努力が必要である。 【より良い事業とするための意見等】 観覧者の要望を調査することなどにより、京都という地域性を活かした展示内容を検討することが求められる。また、年間の展示計画を示し、その広報に努めることでリピーターを呼ぶ方策を打ち出すことが期待される。博物館における児童生徒に対する対応等、観覧者の鑑賞教育の場としても、常設展は活用されなくてはならない。
	京都の立地を活かし、館と社寺を展示と拝観の経路に組み込む手法は、今後も続けるべき良い試みである。3回の特別展はいずれも事前の研究調査を経て実現されたものであり、学術的にも質が高く、ナショナルセンターとしても企画する必要がある。しかし一方で、新館建設計画中における特別展、共催展の在り方を検討する必要がある。 【より良い事業とするための意見等】 外国人や家族連れの入館者がゆったり過ごし、理解を深めることのできる空間が必要である。また、多数の入場者が見込まれる展覧会の際の入場制限、入場予約制の導入、開館時間の延長等について検討すべきである。

			<p>50周年となるのを記念して、中国・朝鮮・日本にて書写された古写経約160件を展示</p> <p>7) 講演会等 6件 8) アンケート調査 ① 調査期間 16年10月19日～11月28日 ② 調査方法 記入式 ③ アンケート回収数 327件 ④ アンケート結果 ・良い 72% (235件) ・まあまあ良い 23% (74件) ・どちらともいえない4% (12件) ・あまり良くない 1% (4件) ・良くない 0% (1件)</p>				
	入館者数						
	共催展 「龜山法皇700年御忌記念 南禅寺」展	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	6万2,665人	A	
	共催展 「神々の美の世界—京都の神道美術—」展	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	4万1,731人	A	
	特別展 「古写経—聖なる文字の世界—」展	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	1万6,780人	B	
	地方巡回展 「京都国立博物館所蔵 日本美術の至宝展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1) 開会期間 16年7月24日～8月29日 2) 会場 大分市美術館 3) 主催 京都国立博物館、大分市美術館、大分合同新聞社 後援 NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分 4) 陳列品総件数 51件 (うち国宝5件、重要文化財15件) 5) 入場料金 大人1,000円(800円)、大・高生700円(500円)、中・小学生無料 * ()内は、団体 6) 展覧会の内容 京都国立博物館の所蔵作品の中でも特に日本美術の平安から江戸時代にかけての多彩な名品を選びとり、「仏」、「人物」、「山水」、「花鳥」という4つのテーマに分けて展示 7) 講演会等 2件 8) アンケート調査 ① 調査期間 16年8月14日～8月18日 ② 調査方法 記入式 ③ アンケート回収数 653件 ④ アンケート結果 ・良い 87% (568件) ・普通 10% (65件) ・悪い 3% (20件)</p>	A	<p>展示品について開催館の希望も受け入れるなど、相手館との連携が良好であるとともに、共催2館間における研究職員間の交流が進むなど、地方巡回展の実をあげたものと高く評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 事前協議を重ね、相手館の状況を把握するとともに、展示に関してはその要望を反映したものとすることが重要である。</p>
	入館者数	11,206人以上	7,844人以上 11,206人未満	7,844人未満	1万4,827人	A	
<p>(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。</p> <p>(2)-2 国立博物館及び公私立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)</p>	貸与・特別観覧の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>(2)-1 貸与・特別観覧の件数 ① 貸与 215件 ② 特別観覧 758件</p>	A	<p>中期計画に沿って、貸与・特別観覧ともに着実な成果をあげ、所蔵する文化財が内外に広く公開された。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 国民共有の財産である文化財の有効な活用の観点から、所蔵品の貸与にあたっては、作品の保存状態・展覧会の内容・展示施設の設定等を考慮した上で、できるだけ希望に応じることが望まれる。特別観覧に関しては、学術研究・教育普及の観点から積極的に取り組む姿勢を示すことが必要である。</p>
	貸与件数	200件以上	140件以上 200件未満	140件未満	215件	A	
	特別観覧の件数	500件以上	350件以上 500件未満	350件未満	758件	A	
<p>3 調査研究 (1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。 (東京国立博物館) 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。 法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。 館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした文化財の調査研究</p>	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>(1)-1 調査研究 ① 社寺の調査研究 ・近畿社寺文化財の調査研究 建仁寺塔頭(大中院・久昌院)に所蔵される文化財約100件を網羅的に調査 ② 展覧会のための調査研究 A 特別展「古写経」に関する調査研究 B 特集陳列「秘蔵証」「描かれた古器物」「仏像と写真」「宸翰」に関する調査研究 C 共催特別展「南禅寺展」「神々の美の世界」に関する調査研究 A B C: 特別展、特別陳列で借用展示した文化財についての基礎的データを収集し、併せて写真撮影を行った。 D 17年度以降の特別展覧会「曾我蕭白」「龍馬が躍った時代」「最澄と天台の国宝」に関する調査研究 展示候補選定のための基礎資料の収集と目録作成用の写真撮影等を行った。 ③ 神と仏の思想的交流と造形 ・(財)仏教美術研究上野記念財団の助成研究で、上記課題に関する調査及び資料の収集、整備を行い、研究発表と座談会を「神の姿をあらわす」(9月6日)、「天平写経とその周辺」(10月25日)の2回開催し、また「図像寛成X」を刊行した。 ④ 科学研究賞補助金による調査研究 A 中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する総合的研究 (研究代表者: 興膳 館長) B 漢字の古写本にみる書式の定型化と初期の印刷物の図様および版式に関する調査研究 (研究代表者: 赤尾 文化資料課保存修理指導室長) C 難波分類に基づく銅鑄出土地名表の作成 (研究代表者: 難波 学芸課考古室長)</p>	A	<p>中期計画に沿い、ほぼ着実に進められた。作品の購入・展示、展覧会の企画、図録やその他の刊行物等に成果をあげている。館外研究員の招聘、研究員の海外派遣はいずれも目標値を超え、成果が着実にあげられている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 研究・調査結果のデータベース化やホームページなどの積極的な公開により、学術研究及び教育普及に寄与することが望まれる。調査研究の一層の充実を図るため、科学研究費補助金等をはじめとする、外部資金の獲得に努める必要があり、その方策の検討が望まれる。 展覧会が研究活動の成果なのか、教育活動なのか、意識的に検討すべき局面である。展覧会図録についても、販売数や価格、掲載内容の評価などを的確に実施すべきである。</p>

<p>を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。 修復文化財に関する調査研究を実施する。 (奈良国立博物館) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。 仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。 (1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>				<p>D 江戸時代京焼の技術基盤に関する研究 (研究代表者：尾野 学芸課教育室主任研究官) E 日本仏画における皆金色技法の成立と表現史に関する基礎的研究 (研究代表者：泉 学芸課教育室長) F 五山禪宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究 一建仁寺両足院所蔵本を中心にー (研究代表者：赤尾 文化資料課保存修理指導室長) G 近世漆工芸基礎資料の研究 一高台寺講絵を中心にー (永島 文化資料課文化資料管理室 研究員) ⑤保存・修理に関する調査研究 修復中への調査可能な文化財の構造等について、修復過程を観察することにより解析し、当該文化財に関する情報を収集した。また銘文等を解読し、制作年代等に関する資料を収集した。 (1) -2 客員研究員等の招聘実績 10人 ※調査員5人を含む 海外研究者招聘 7人 研究員派遣 11人</p>		
<p>4 教育普及 (1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。 (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。 (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。 また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>博物館に関する情報の収集及び公開の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) -1 資料の収集および公開 ①収集件数 図書 1,316冊(和書 634冊 漢書 666冊 洋書 16冊)写真原板 7,344枚 ②公開場所 平常展示館ロビーのレファレンス・コーナーにおいて美術図書を公開 (1) -2 デジタル化の状況 ①日本写真印刷株式会社との契約によるデジタル画像データの有料提供の開始 「@KYOTOMUSE Digital Archives」 使用申請件数 1件、利用料収入 90万900円 ④収蔵品のデジタル高精細画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開 ③収蔵品のうち国宝については、5ヶ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像として平常展示館ロビーにて公開</p> <p>(5) -1 広報活動の状況 ①刊行物 ・京都国立博物館だより(日本語) ・KYOTO NATIONAL MUSEUM NEWSLETTER(英語) ・16年度催事案内 ・展示案内(日本語版、英語版、中国語版、韓国語版、仏語版) ・学叢 第26号 ・助成研究報告書(画像苑成 X、神の姿をあらわす(32冊)) ・Masterpieces of the Kyoto National Museum(英語版名品図録) ②インターネットの活用 ・ホームページの展覧会情報・収蔵品カタログの情報量を増やすとともに、研究紀要「学叢」をホームページで公開した。 ・イベントを実施するに当たり、ホームページを利用し画面上からチケット予約ができるように館独自で開発した。</p>	<p>A</p>	<p>中期計画に沿って、いずれの項目も目標を上回る実績をあげている。特に収蔵品に関する出版に積極的であることが評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 所蔵品を有効に活用するためだけでなく、ファンを増やすためにも、編集方針やデザイン、内容を調整して、一般向け、子供向け、外国人向け等バラエティーに富んだ出版活動に挑戦することが望まれる。 また、資料のIT化、デジタル対応を一層推進すべきであるとともに、積極的に公開すべきである。</p>	
<p>(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 (東京国立博物館) 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。 中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。 (京都国立博物館)</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2) -1 児童生徒を対象とした事業 ①絵画コンクールの実施 ②小・中学生向け解説シート(博物館ディクショナリー)を継続して作成し、かつ、ホームページに掲載し充実 ③中学生の体験学習生を受入れ ④特別陳列で展示品解説講座「少女少女博物館くらぶ」を実施(2回)</p> <p>(3) -1 講演会等の事業 ①展示・収蔵品に関連する土曜講座及び夏期講座を実施 講演会 土曜講座 46回 夏期講座 3日 ②神と仏の思想的交流と造形に関するシンポジウムの開催 ③国際シンポジウムの開催</p> <p>(3) -2 友の会活動 会員数 1,884人(会員には土曜講座への参加を奨励した。)</p>	<p>A</p>	<p>土曜講座、夏期講座、シンポジウムなどの講演会活動は定着し、中期計画に沿って、着実に成果があげられている。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 生徒児童を対象とする講座・講演会・ワークショップ等は、親子一緒に参加を考慮した企画を検討することが必要である。当面は児童生徒を対象とするワークショップが適当ではないか。また、一般観覧者にも配慮しつつ、教員等が展覧会場内で児童生徒に解説のできる方策を検討することが望まれる。 また、友の会等の支援組織への参加者に対しては、参加形態の別に応じて相応しい付加価値を付けることを検討する必要がある。</p>	

<p>小中学生学習プログラム等について検討、実施する。 (奈良国立博物館) 親子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。 (3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるときに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。 (3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>博物館ディクショナリー</p> <table border="1"> <tr> <td>回数</td> <td>46回以上</td> <td>32回以上 46回未満</td> <td>32回 未満</td> <td>46回</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3,908人以上</td> <td>2,736人以上 3,908人未満</td> <td>2,736人 未満</td> <td>5,074人</td> </tr> <tr> <td>アンケート</td> <td>80%以上</td> <td>56%以上 80%未満</td> <td>56% 未満</td> <td>86%</td> </tr> </table> <p>②夏期講座</p> <table border="1"> <tr> <td>回数</td> <td>3日以上</td> <td>2日</td> <td>2日 未満</td> <td>3日間</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>133人以上</td> <td>93人以上 133人未満</td> <td>93人 未満</td> <td>185人</td> </tr> <tr> <td>アンケート</td> <td>80%以上</td> <td>56%以上 80%未満</td> <td>56% 未満</td> <td>94%</td> </tr> </table>	回数	46回以上	32回以上 46回未満	32回 未満	46回	人数	3,908人以上	2,736人以上 3,908人未満	2,736人 未満	5,074人	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	86%	回数	3日以上	2日	2日 未満	3日間	人数	133人以上	93人以上 133人未満	93人 未満	185人	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	94%	<p>7,500部以上</p> <p>5,250部以上 7,500部未満</p> <p>5,250部 未満</p> <p>1万8,000部</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	
回数	46回以上	32回以上 46回未満	32回 未満	46回																														
人数	3,908人以上	2,736人以上 3,908人未満	2,736人 未満	5,074人																														
アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	86%																														
回数	3日以上	2日	2日 未満	3日間																														
人数	133人以上	93人以上 133人未満	93人 未満	185人																														
アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	94%																														
<p>(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 C 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。 (6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。 なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(4)-1 研修の取組・公私立博物館への助言等 ① 国宝修理装こう師連盟定期研修会に協力(11月5・6日) 博物館関係者、修理技術関係者の各種研修会に協力した。 ② (財)日本国際協力センターによる研修会「文化財修復整備技術コース」に協力(4月20日~22日) 海外修復関係者研修に協力した。 協力した研究員数 5人 参加者数 外国人 9人 ③ 文化庁による指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナーに協力(11月8日~12日) 協力した研究員数 7人 参加者数 25人 ④ 文化庁主催「文化財保存技術2004 伝統の名匠 伝統的な文化財を守り伝える」に共催し、保存修理指導室長が「文化財修復への取組みについて」と題し講演を行った。(12月18日・19日) ⑤ (独)国際協力機構主催による平成16年度ネパール国課題別研修「資料保存及び国立国会図書館運営等」に協力 文化財保存修理所等を見学(11月5日) ⑥ (財)ユネスコ・アジア文化センター主催によるアジア太平洋地域文化遺産保護調査修復研修に協力(12月9日) ⑦ 秋田県埋蔵文化財センター主催による中国甘肅省交流員の視察研修に協力(平成17年1月26日) ⑧ 公私立博物館・美術館の展覧会の充実のために援助・助言した。(9件) (4)-5 大学等との連携 ・京都大学大学院人間・環境研究学研究所歴史文化社会論講座の運営、また博物館実習として各大学から受け入れ ①大学院生 受入数 12人 ②博物館実習生参加者数 17大学37人 (6)-1 ボランティアの活用状況 ①京都橘女子大学との学術交流の一環として、18人を受け入れ解説ボランティア(常設展の展示解説)を実施 ②調査・研究補助として、7人を受け入れた。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>中期計画に沿って着実に成果を上げている。文化財の修復に関する研修に実を上げたことは評価できる。大学等との連携においても、一定の評価を得るに足る実績を残したが、これを継続できるかが次の課題と言える。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 ボランティアは、展示解説に留まることなく、本人の希望や能力に相応しい多様な活用の方策を検討すべきである。 公立美術館・博物館への指定管理者制度導入により、経営、運営に種々の問題が生じ、国立博物館へ指導・助言・相談を行う事例が多くなると予想されるので、積極的な対応を行うことが求められる。</p>																													
<p>(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(6)-2 ・(社)京都市観光協会が実施している「修学旅行バスポート」への事業に賛同し、「修学旅行バスポート」持参の修学旅行生に入館料を減免する傍ら広報活動を行った。 ・さまざまな文化活動を行っている大阪21世紀協会の広報活動に賛同し、展覧会事業の外国人向けの広報活動を行った。 ・企業等が実施するさまざまな事業に対して賛同し、入館料を減免する傍ら企業が発行する情報誌等に展覧会情報掲載するなど広報活動の充実を図った。 企業が実施する事業協力 ・当館と京阪電車の共催でイベント(オペラコンサート)を実施した。 ・ホテル、観光案内所へのポスター・チラシの常設掲出。 ・支援団体である社団法人清風会が主催する文化財の見学会・鑑賞会に協力(9件)及び清風会会報の巻頭を当館研究員が執筆(担当した研究員・回数:4名・4回)。</p>	<p>A</p>	<p>中期計画に沿って、サービスの向上に努め、地域との連携を深める多様な活動が実施されたことが認められる。京都を代表する文化財の中核施設として、国内外の企業、観光事業者から協力・協賛を積極的かつ幅広く集めるよう活動すべきである。博物館における渉外には文化機関としての自覚も望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 地域資源の有効な活用に積極的な取組を行うことが必要である。地域企業との連携を深め、支援体制を充実すべきである。</p>																													
<p>6 その他の入館者サービス (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)-1 高齢者・身体障害者のための施設整備等 ① 高齢者、障害者等に配慮し、管理棟玄関に段差解消機を設置した。 ② 平常展示館入口の館内看板 (1)-2 観覧環境の充実 ① 平常展示館の関連整備・庭園の整備</p>	<p>A</p>	<p>モニターの導入、高齢者、身体障害者に対応する設備の充実など、中期計画に沿って一定の成果があげられ評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p>																													

<p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的を実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平常展入口の案内看板類の情報を整理し、大きく見やすいデザインに改めた館内見取り図を中心とする大看板を作成した。 ・不要な順路指示板、結界等を撤収し、来館者が見たい展示物に短距離で到達できるよう、従来の強制動線から自由動線に変更した。 ・人と人とのふれあい、あたたかみのある観覧環境を目指し、入口の案内看板で順路、展示内容等について疑問を感じた観覧者には、外国人対応のため前年度より設置したインフォメーションデスクで対応し、質問に答える体制をとった。 ・文化財地図を見やすくわかりやすいものに変更した。 ・庭園内にベンチ付日除けシェルターを設置した。また、丸地周囲のサークルベンチを改修した。 <p>② 音声ガイド</p> <p>ア 展覧会名 南禅寺展 貸出期間 16年4月6日～5月16日 貸出件数 6, 351件</p> <p>イ 展覧会名 神々の美の世界 貸出期間 16年8月10日～9月20日 貸出件数 4, 653件</p> <p>ウ 展覧会名 古写経—聖なる文字の世界— 貸出期間 16年10月19日～11月28日 貸出件数 1, 488件</p> <p>(1) -3入館者等の要望の反映</p> <p>① 館内に意見箱を設置し、入館者の意見を随時受け付け満足度の調査を実施し、展示等に反映した。</p> <p>② 当館への意見を聴取するため教員(3名)及び外国人モニター(1名)を委嘱した。</p> <p>(2) 夜間開館等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間開館 共催展、特別展期間中、毎週金曜日は20時まで、その他の日は18時まで開館した。 <p>① 開館日数 18日</p> <p>② 入館者数 1, 930人</p> <p>③ 無料観覧日(平常展) 毎月第2・第4土曜日、9月20日(敬老の日)、11月5日(留学生の日)、11月20日・21日(関西文化の日)、3月11日～21日(伝統産業の日 着物着用者のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正月開館 1月2日から開館(それに合わせ新春特集陳列「十二天画像と山水屏風 一平安の雅—」「高台寺絵巻と南蛮漆器」「仏像と写真」を開催) <p>(3) レストラン・ミュージアムショップの充実</p> <p>京博の収蔵品を題材としたオリジナルグッズ(日本でめぐい)を開発し、ミュージアムショップにて販売した。</p>	<p>外国人モニター、大学生モニターを積極的に行うべきである。また、施設利用や顧客サービス全般にわたるより細やかな調査等により、館の魅力作りをすべきである。また、利用者本位のレストラン、ミュージアムショップの充実が望まれる。その他、夜間開館については、効果的な広報を行うことが必要である。</p> <p>また、ポスター等、デザインにばらつきがありすぎるので、館としてのデザインコードを細かく決めることが、広報上、また、質の維持においても必要不可欠である。</p>
--	--	---

【奈良国立博物館】

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定	
		A	B	C		段階的 評定	定性的 評定
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1 業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー等(リサイクル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気 使用量 4, 563, 270kwh (前年度比 102.03%) ・水道 使用量 19, 539m³ (前年度比 103.56%) ・ガス 使用量 551, 046m³ (前年度比 95.96%) ・紙 使用量 673, 000枚 (前年度比 97.90%) ・廃棄物(一般) 3, 324Kg (前年度比 102.78%) (産廃) 970Kg (前年度比 22.07%) <p>(3) 施設の有効利用(外部利用件数/全体利用件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂の利用 12件/41件 うち有償貸付 5件(前年度 14件/29件 うち有償貸付 5件) ・茶室の利用 21件/21件 " 21件(前年度 30件/30件 " 30件) ・地下回廊の利用 3件/5件 " 3件(前年度 2件/2件 " 2件) ・会議室の利用 2件/3件 " 2件(前年度 2件/2件 " 1件) ・敷地の利用 4件/9件 " 1件(前年度 5件/5件 " 3件) <p>(4) 外部委託</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展・特別展での看視・売札・図録販売業務に係る臨時アルバイトの継続的導入 ・特別展での売札業務の委託 ・正倉院展會期中、入口から離れた場所に設置した臨時コインロッカーの管理について、隣接する臨時休憩所運営業者に委託 ・正倉院會期中、敷地内への入場車両の整理 ・施設関係の保守・点検(空調、エレベーター、図書情報管理システム、電子案内版、電話設備、報知器等) ・館内施設(トイレ、ガラス、床等)及び館外敷地の清掃業務 ・売札業務の一部を外部委託 <p>(5) OA化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子メール等の活用による各種通知・連絡のペーパーレス化の浸透 ・業務用の各種統計データ、資料のファイルサーバ上の保存による情報の共有化 <p>(6) 一般競争入札</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般競争入札件数 4件(図録印刷 2件、空調設備運転管理 1件、自動券売機 1件) 	<p>A</p>	<p>所期の計画をおおむね達成し、かつ、職員全体が一体となり、コスト意識及び環境意識を高めることで、改善が図られたことは評価できる。特に危機管理については、現状の見直し及びその対策が具体的に実施され、評価できる。なお、施設の有効利用については、一層の効率化が図れる余地を感じる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後ともコスト意識や環境意識を葆ちつつ、一層の改善が進められることが望ましい。また、国立博物館が文化財を管理する施設であることを考慮しつつ、施設利用の効率化や外部委託の促進が図られるべきである。</p>		

				<p>2</p> <p>1) 評議員会、文化財保存修理所運営委員会、運営会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 評議員会2回、文化財保存修理所運営委員会1回、運営会議19回 ・議事内容 評議員会 第1回(平成16年7月15日開催) <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度事業報告について ・平成16年度事業について ・平成16年度事業報告について ・平成17年度事業計画について 第2回(平成17年3月14日開催) <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度事業報告について ・平成17年度事業計画について ・平成17年度事業計画について <ul style="list-style-type: none"> 文化財保存修理所運営委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度事業報告について ・平成17年度事業計画について 運営会議 列品の貸出、事業計画、事業収支、その他館の運営について検討 <p>2) 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部主催研修(新任職員研修、接遇研修)への参加 ・セクハラ防止研修の実施 <p>3) 危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理マニュアル」(当館作成)による対応 		
	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	<p>1. 0%</p> <p>算式 効率化率=(見積予算額-決算額)÷見積予算額</p> <p>= [(予算額÷0.99) - 決算額] ÷ (予算額÷0.99)</p> <p>= [(1,173,928,680÷0.99) - 1,173,928,680] ÷ (1,173,928,680÷0.99) = 0.0100</p> <p>運営費交付金予算額 1,173,928,680円、効率化した額 1,173,928,680円</p>	B

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的評定	評定 定性的評定
		A	B	C			
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>仏教美術を中心とした名品を収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1 収集・保管</p> <p>1) 購入 件数15件 分野別内訳 絵画 3件、書跡 4件、彫刻 2件、工芸品 4件、考古資料 2件</p> <p>2) 寄贈 2件</p> <p>3) 寄託 1,946件(うち国宝 52件、重要文化財 325件)</p>	<p>1,946件</p>	A	<p>収集が的確に進捗し、良質な収蔵品が確実に増加していることは評価できる。収蔵品の少ない奈良国立博物館では、今後とも作品の購入、寄贈、寄託を計画的に進める必要がある。特に主要な寄託者である社寺との交流や連携を維持し、構築することで、寄託品の充実を図り、展示計画に反映させることが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後も仏教美術をより一層充実させることが望まれる。所蔵品については得意分野を最優先とした館の魅力作りを行うべきであり、4館で所蔵品の交換を行い、より明確な方向性を打ち出すのも、限られた予算を活かす一つの方法である。</p> <p>また、寄贈のさらなる拡大のため、文化庁と連携して税制上の改善が望まれる。寄託品の返却や寄託料徴収の検討については、館の立場としてだけでなく、法人全体の活動を考慮した判断が必要である。また、文化庁購入品の活用については、文化庁と十分協議する必要がある。</p>	
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2)-1 保存環境の向上</p> <p>①文化財保存修理所の円滑な運用</p> <p>文化財保存修理所の装架環境(彫刻分野)ともに活発に活動し、装演37件 彫刻16件、工芸4件の修理の実施を管理指導した。</p> <p>②環境管理</p> <p>A 温湿度 展示会場(本館、西新館、東新館)空調実施時間 24時間(温度 22~25℃ 相対湿度 60%±5%)</p> <p>B 照明 展示会場において、陳列品保護のため80~100ルクスを保持した。</p> <p>C 空気汚染 外気をできるだけ取り入れない方針により、空気環境測定を定期的の実施、適切な環境を保持した。</p> <p>(2)-2 保存カルテの作成件数 絵画・書跡・彫刻・工芸・考古の各部門 144件</p> <p>(3) 防災・防犯</p> <p>①防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市消防局との合同消防訓練の実施 ・奈良市消防局による館内消防設備の定期的点検の実施 ・奈良市消防局主催の文化財防火ゼミナールへの参加 ・奈良県文化財保安連絡会議(奈良県警察本部生活安全部主催)の当館での開催及び参加 ・防災マニュアルの配布 	<p>4館の中で最も具体的に危機管理に対する取組が進められている。防災マニュアルを作成・配布し、防災に対する職員意識向上を図り、積極的に実地訓練などを行ってきたことは特に評価できる。</p> <p>また、保存環境の向上に努め、展示室の環境が適切に維持されたことが認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>文化財保存修理所の円滑な運用により、博物館活動の一層の充実が期待される。</p>			

	保存カルテ件数	90件以上	63件以上 90件未満	63件未満	144件	A	
(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 ①緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 ②長期寄託品等の修理を実施する。 ③伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 ④文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。 (3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(3)-1 ・ 絵画1件 書跡1件 彫刻1件 工芸品2件 考古資料1件 計 6件 ・ (財)住友財団の助成による長期寄託品の修理2件(彫刻1件、絵画1件) ・ 文化財修理の写真・解説を地下回廊においてパネルで紹介 ・ 研究紀要に文化財修理の報告を掲載 ・ 修理記録のデータベース化を進めるために、当館文化財保存修理所からの資料提供を求め、順次整理を行っている。 (3)-2 当館における修理業者と連携し研修会を開催(2回)	A	適切な修理保存計画のもとで業務が遂行された。修理の報告書を研究紀要に掲載するとともに、一般には写真、解説パネルで修理の成果を展示するなど、保存修理の重要性を広く説明しているのは評価できる。また、国内外の博物館等の修理・保存処理の充実へ寄与する努力に実を上げたことは評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 修理した作品に関する解説パネルの展示は、専門家だけでなく一般にもわかりやすいものとし、事業に対する理解を深めるとともに、支援者を育成して、その援助を獲得するようにする必要がある。 また、保存修理関係資料のデータベース化について、その促進に努める必要がある。なお、データベースは4館共通の規格で行うことが望まれる。
	修理件数(寄託品を含む)	6件以上	4件以上 6件未満	4件未満	6件	A	
2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。 (1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。 (東京国立博物館) 年3～5回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。 (1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度) (1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。 (1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公私立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度) なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。 (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。	展覧会の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			2 公衆への観覧 1) 常設展 ・ 開会期間 16年4月1日～17年3月31日 (316日間 常設展のみの開会期間163日) ・ 陳列替回数 延べ25回 ・ 陳列品総件数 760件 ・ 特別陳列 4回 ・ 親と子のギャラリー 1回 ・ 特集展示 2回 ・ 特別出陳 1回 2) 特別展・共催展 5回 ① 特別展 法隆寺—日本仏教美術の黎明— ② 特別展 黄金の国・新羅—王陵の至宝— ③ 特別展 第56回正倉院展 ④ 共催展 台風復興支援 厳島神社国宝展 ⑤ 特別展 曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展— 3) 海外交流展・交換展 1回 海外交流展 日本名宝展(中国国家博物館) 4) 地方巡回展 開催計画なし 5) 入館者数 36万5,030人	A	恒例の「正倉院展」をはじめとして、地域性を踏まえた高水準の展覧会が続いたと評価できる。また、緊急性のある「厳島神社展」を開催し、入場者数が目標値を大きく超えたことを評価できる。大学や研究所等の専門家の企画への参加の実を得て、展示に反映させることができたことも良い。 【より良い事業とするための意見等】 他の研究諸機関の研究者との研究交流及び連携を図り、その成果を展覧会の企画に反映させることが望まれる。仏教美術を中心とする博物館として、国民に向けてその特徴を活かした展示の企画や教育普及の活動を行うとともに、海外との交流にも実をあげるため海外展、交換展を促進させることが期待される。
	入館者数	290,000人以上	203,000人以上 290,000人未満	203,000人未満	36万5,030人	A	
	常設展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1) 開会期間 16年4月1日～17年3月31日(316日間) 常設展のみの開会期間 163日間 2) 会場 本館、西新館 3) 陳列品総件数 760件(=延べ件数) 本館 351件(うち国宝 9件、重要文化財 43件) 西新館 409件(うち国宝 22件、重要文化財103件) 4) 陳列替回数 延べ 25回 5) 入場料金 大人420円(210円) 高校・大学生130円(70円) 高齢者(70歳以上)及び小・中学生無料 ※ () 内は20人以上の団体料金 6) 特別展観等 5件 特集展示 3件 特別出陳 1件 7) アンケート回収数 1,183枚 アンケート結果 良い点、改善を要する点等を記述により観覧者が記載	A	特別展示、特別陳列、特集展示など、特別展や奈良の行事に連動する能動的な取組を高く評価できる。能動的な取組にはきわめて説得力がある。 【より良い事業とするための意見等】 季節の行事などと上手に関連付けながら、今後も深みのある展示を続け、最大の特徴である仏教美術への興味と理解を喚起する展示がなされることが期待される。その他、常設展は観覧者の鑑賞教育の場として活性化される必要がある。
	陳列替数	24回以上	16回以上 24回未満	16回未満	25回	A	
	陳列件数	700件以上	490件以上 700件未満	490件未満	760件	A	
	特別展等	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			特別展 「法隆寺—日本仏教美術の黎明—」 1) 開会期間 16年4月24日～6月13日 2) 会場 東・西新館 3) 主催 奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局 4) 陳列品総件数 100件(うち国宝13件、重要文化財40件) 5) 入場料金 大人1,000円(900円) 高校・大学生700円(600円) 小・中学生400円(300円) ※ () 内は前売り及び20人以上の団体料金	A	「黄金の国・新羅—王陵の至宝展」は、高度な水準の展覧会であり、これを実現した館の長年の努力を多量にしたい。なお、入場者数が目標値に達しておらず、評価指標にならない事例の一つと言えるが、開催時期や広報等について検討すべき課題を残した。また、「厳島神社国宝展」も企画が

- 6) 展覧会の内容
法隆寺伝来した文化財を中心に、飛鳥美術の源流というべき朝鮮半島・百済や中国（六朝時代）の作品をも展示して、黎明期の日本仏教美術展開の種々相を紹介するとともに、人々の信仰や美意識をさぐり、日本独自の表現の歴史を追究。
- 7) 講演会等 公開講座 6回 ギャラリートーク 3回
8) アンケート回収数 250件
アンケート結果 ・良い82%（206件）・普通14%（34件）・悪い2%（5件）・無回答2%（5件）
- 特別展 「黄金の国・新羅—王陵の至宝—」
1) 開会期間 16年7月10日～8月29日
2) 会場 東・西新館
3) 主催 奈良国立博物館、韓国国立慶州博物館
後援 産経新聞社、NHK奈良放送局、奈良市、奈良市教育委員会
協力 日本航空
4) 陳列品総件数 98件
5) 入場料金 大人1,000円（900円） 高校・大学生700円（600円）
小・中学生400円（300円） ※（ ）内は前売り及び20人以上の団体料金
- 6) 展覧会の内容
北方騎馬民族とシルクロードの文化の影響の下で成立した古代朝鮮半島の王朝・新羅の黄金文化を、天馬塚・皇南大塚・金冠塚・端鳳塚などの王陵及び王陵級の古墳から出土した至宝により紹介する。
- 7) 講演会等 公開講座 4回 ギャラリートーク 1回
8) アンケート回収数 250件
アンケート結果 ・良い82%（206件）・普通14%（34件）・悪い2%（5件）・無回答2%（5件）
- 特別展 「第56回正倉院展」
1) 開会期間 16年10月30日～11月15日
2) 会場 東・西新館
3) 主催 奈良国立博物館
協力 朝日新聞社、NHK奈良放送局
4) 陳列品総件数 75件
5) 入場料金 大人1,000円（900円） 高校・大学生700円（600円）
小・中学生400円（300円） ※（ ）内は前売り及び20人以上の団体料金
- 6) 展覧会の内容
聖武天皇と光明皇后御遺愛の品々をはじめ、東大寺ゆかりの儀式具・装束・仏具・献物箱等を出陳し、正倉院宝物の全容が概観できる内容とした。今回は特に楽器、伎楽面等楽関連の遺品、また寺院の荘厳に用いられた仏教関係の遺品が多く出陳され、最近の調査研究の成果を反映した展示となった。
- 7) 講演会等 公開講座 4回 ギャラリートーク 2回
8) アンケート回収数 1,097件
アンケート結果 ・良い77%（841件）・普通16%（172件）・悪い5%（49件）・無回答3%（30件）
- 共催展 「台風被災復興支援 厳島神社国宝展」
1) 開会期間 平成17年1月2日～2月13日
2) 会場 東新館
3) 主催 奈良国立博物館、厳島神社、読売新聞社
共催 NHK奈良放送局
後援 文化庁
4) 陳列品総件数 30件（うち、宝9件、重要文化財16件）
5) 入場料金 大人1,200円（1,000円／900円）
高校・大学生800円（600円／500円）
小・中学生500円（300円／200円）
（前売り／20名以上の団体料金）
- 6) 展覧会の内容 平成16年9月、日本列島を襲った台風18号により被災した厳島神社の復興支援のため緊急企画された。平清盛とその一族が写経した装飾経の最高傑作「平家納経」をはじめ、厳島神社に伝わる古神宝及び武器・武具などを「平家ゆかりの品々と厳島の至宝」「国宝・平家納経—善美をきわめる」「厳島の芸能—仮面と装束の美」の3つのテーマで紹介する。
- 7) 講演会等 4回
8) アンケート回収数 215件
アンケート結果 ・良い81%（175件）・普通 9%（19件）・悪い 5%（10件）・無回答5%（11件）
- 特別展 「曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展」
1) 開会期間 平成17年3月23日～5月8日
2) 会場 東・西新館
3) 主催 奈良国立博物館、文化庁、奈良文化財研究所、国際交流基金
後援 朝日新聞社
協力 小学館
4) 陳列品総件数 121件（うち、国宝3件、重要文化財35件）
5) 入場料金 大人1,000円（900円） 高校・大学生700円（600円）
小・中学生400円（300円）
※（ ）内は20人以上の団体料金、及び前売り料金
- 6) 展覧会の内容 日本における考古学の調査や研究の成果をもとに、日本文化のはじまりをヨーロッパに紹介しようという試みで、文化庁及び国際交流基金主催の海外展がドイツで開催され、その帰国展として開催。旧石器時代から奈良時代までの各時代を代表する重要遺跡からの出土品を通じて、古代人の生活や文化、そこに生きた知恵を還元し展示。
- 7) 講演会等 1回

ら開催まで極めて短期間だったにも関わらず優れた内容で、講演会や東京芸術大学美術館との共催など、特筆すべき点が多い。また、特別展に運動する多様な関連行事は、地域性が活かされた貴重な試みとして評価できる。

【より良い事業とするための意見等】
工芸技術記録映画の上映などはより頻繁に行い、あわせてその工程ごとの実物を見ることが出来る場所などあれば、この館の魅力が一層向上する。また、多数の入場者が見込まれる展覧会の際の入場制限、入場予約制の導入、開館時間の延長等について検討すべきである。

入館者数

	特別展 「法隆寺—日本仏教美術の黎明—」	60,000人以上	42,000人以上 60,000人未満	42,000人未満	7万3,716人	A	
	特別展 「黄金の国・新羅—王陵の至宝—」	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	2万6,407人	B	
	特別展 「第56回正倉院展」	130,000人以上	91,000人以上 130,000人未満	91,000人未満	13万1,978人	A	
	共催展 「台風被災復興支援 厳島神社国宝展」	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	4万3,380人	A	
	特別展 「曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展」	—	—	—	3,392人 (17年3月末現在)	—	
	海外交流展 「日本名宝展」				1) 開会期間 平成16年 5月25日～6月30日 2) 会場 中国国家博物館 3) 主催 中国国家博物館、奈良国立博物館、文化庁、国際交流基金 協力 全日本空輸 4) 陳列品総件数 99件(うち国宝 6件、重要文化財 24件、重要美術品 2件) 5) 入場料金 一般 20円 高校生10円 6) 展覧会の内容 2003年、日中友好条約締結30周年を迎えたが、中国における日本への関心は主に現代日本の経済や商品であり文化への関心は高いといえない。中国北京において日本文物を総合的に紹介することにより、日本文化の理解に大きく貢献するものである。縄文土器などの考古遺品をはじめ、仏教美術、正倉院宝物(模造)、貴族と武家の暮らし、近世美術という構成で日本美術の粋を展示。 7) 講演会等 中国国家博物館職員によるギャラリートーク 随時 現地ボランティアによる展示解説 等 8) その他 2004年5月に開催を予定していたが、SARS問題により延期したものである。	—	
	入館者数	—	—	—	3万4,312人	—	
(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。 (2)-2 国立博物館及び公私立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)	貸与・特別観覧の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(2)-1 貸与・特別観覧の件数 貸与 128件(目標 約130件) 特別観覧 816件(目標 約400件) (写真撮影18件、写真原板使用762件、テレビ撮影5件、熟覧31件)	A	貸与は相手の条件によるため、目標値を設定できるものではなく、貸与自体が貢献である。
	貸与件数	130件以上	91件以上 130件未満	91件未満	128件	B	【より良い事業とするための意見等】 デジタル資料の有効利用を進めることが望まれる。また、作品の保存状態やその目的を考慮した上で、所蔵文化財の有効活用のため要請に沿った作品貸与並びに特別観覧が行われるべきである。
	特別観覧の件数	400件以上	280件以上 400件未満	280件未満	816件	A	
3 調査研究 (1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。 (東京国立博物館) 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。 法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。 館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした文化財の調査研究を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。 修復文化財に関する調査研究を実施する。 (奈良国立博物館) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1)-1 1 収蔵品の調査研究 ・絹本着色十一面観音像(国宝)のデジタル高精細画像コンテンツの作成し、蛍光エックス線による調査を行った。 2 展覧会のための調査研究 ① 南都諸社寺に関する計画的な調査研究 ・特別展「公慶上人」に関する集中的調査を学芸課各部門ともに実施した。 ・特別陳列「宿院仏師」に関する調査を実施した。 ② 特別展等に関する調査研究 ・17年度開催の特別展「古密教」に関する調査を継続的に実施した。また海外からの出陳品に関する調査のために、研究員数名を中国及び米国に派遣した。 ・特別展「正倉院展」に関する調査を継続的に実施した。 ③ 仏教美術写真収集及びその調査研究 ・特別展「法隆寺」、「厳島神社国宝展」、特別陳列「談山神社の名宝」等に際して、収集した文化財について写真収集及び調査研究を実施した。 3 科学研究費補助金による調査研究 ①文化財情報の構造分析と情報資源の流通に関する基礎的研究 ②6-8世紀の東アジア仏教美術と華厳思想 ③考古遺物から見る古代建築技術の総合的研究 ④料紙の形態からみた古文書伝来過程の研究 4 保存・修理に関する調査研究 ① 大和古代寺院出土遺物の帝塚山大学考古学研究所との共同研究 ・斑鳩法輪寺出土の古瓦類の整理及び調査研究を帝塚山大学考古学研究所と共同で実施した。翌年度報告の予定である。 5 その他の研究 ① 海外所在東洋美術を対象とする調査研究 ・ドイツ・ベルリン東洋美術館における日本古美術品(絵画部門)を、元興寺文化財研究所と共同で実施した。17年度に報告書を刊行の予定である。 ② 韓国国立慶州博物館、中国上海博物館、中国国家博物館(北京)等との学術交流。 ・韓国国立慶州博物館から特別展「黄金の国・新羅」開催中に研究員を招へいし、講座を開催した。また、同所から研究員等3名を招へいし我が国の博物館美術館運営の現状について意見交換した。当館研究員2名を各1ヶ月間、国立	A	活発な調査研究活動が行われており、評価できる。館外研究員の招聘、研究員の海外派遣はいずれも目標値を超え、活発な充実した調査研究活動が行われていることが確認できた。研究員を中国、韓国等に派遣し、かつ招聘することにより研究交流が図られ、研究職員の研修が効果的に行われた。 【より良い事業とするための意見等】 研究・調査結果のデータベース化やホームページなどでの積極的な公開により、学術研究及び教育普及に寄与することが望まれる。調査研究の一層の充実を図るため、科学研究費補助金等をはじめとする、外部資金の獲得に努める必要があり、その方策の検討が望まれる。 展覧会が研究活動の成果なのか、教育活動なのか、意識的に検討すべき局面である。展覧会図録についても、販売数や価格、掲載内容の評価などを的確に実施すべきである。

<p>仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。</p> <p>(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>				<p>慶州博物館に派遣し、彫刻および金石文等について調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国上海博物館から研究員3名を招へいし、当館及び国内の博物館美術館を視察し意見交換を行った。当館からは3名を派遣し、上海博物館および中国国内の仏教遺跡の調査研究を行った。 <p>③ 東京文化財研究所との共同研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京文化財研究所との共同研究で当館所蔵の絹本着色十一面観音像の調査を実施し、一定の成果を得たのでパネル展示で公開した。更に、寄託品である絹本着色天台高僧像(国宝、一乗寺蔵)についても調査を実施した。 <p>(1)-2</p> <p>1 客員研究員等の招聘実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 染織(上代染織)、考古資料(古瓦)、絵画(仏画)の部門に各1名の客員研究員を招へいし、前二者については収蔵品に関する継続的な調査、絵画部門については、高精細デジタルコンテンツの作成にかかわる調査に助言いただいた。 <p>2 海外客員の招聘実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国国立中央博物館、中国国家博物館、米国フリーア美術館から各1名の研究員を招へいし、当館収蔵品の調査及び国内の博物館美術館における調査を行い、意見交換した。 韓国国立慶州博物館との間で研究員2名を度招へい・派遣し、研究交流を図る。 中国上海博物館との間で研究員各3名を招へい・派遣し、研究交流を図る。 <p>3 研究員等の派遣実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国慶州博物館、中央博物館、中国上海博物館、国家博物館、河南博物院、米国ニューヨーク市立図書館、ドイツベルリン東洋美術館、ベルリン・ライス・エンゲルスホルン博物館、マンハイム博物館等に展覧会調査・学術交流のために研究員を派遣した。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国東亜日報所属の文化記者を約1ヶ月間受け入れ、我が国の文化財に関する調査の便宜を図った。 <p>(2)</p> <p>1 調査研究成果の発表等</p> <ul style="list-style-type: none"> 『鹿園雑集』第7号では論文1本、講演録1本、修理報告3本、資料紹介1本を掲載した。 「韓国古代木簡研究の現状と課題」、「泗洲時期百濟土器の生産と流通」と題して、国際研究会を3月26日に当館において開催し、国内外から約20人の参加があり、活発な討論を通して研究交流に努めた。 文化財修理報告書刊行のための資料収集等の調査を行った。 ホームページ上で文化財情報・研究情報を継続的に公開した。 当館における文化財修理についてパネル展示を行った。 文化財保存修理所で修理した文化財を修理前後の写真パネル等で展示 当館所蔵の絹本着色十一面観音像の光学的調査の成果をパネルで展示 	A	
<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。</p> <p>また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>博物館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>		<p>(1)-1 資料の収集及び公開</p> <p>① 収集件数 写真原板 4,513枚 図書 1,300冊</p> <p>② 公開場所 仏教美術資料研究センター、西新館学習コーナー</p> <p>・利用者数 290人</p> <p>・貸出件数 閲覧のみ</p> <p>(1)-2 デジタル化の状況</p> <p>ホームページ掲載写真検索システムの個別データ追加件数 9,810件</p> <p>(5)-1 広報活動の状況</p> <p>① 収蔵品についてのデータ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財情報データ(9,810件) <p>② 広報誌等の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良国立博物館だより(年4回)、各展覧会目録の刊行(11冊) <p>③ 小・中学生等に対する文化財理解の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータ画像の積極的活用 展覧会場にクイズ形式の仏像解説を配置 <p>④ 館蔵品(重要文化財)の詳細な画像データの蓄積とその公開</p> <p>③ 調査、研究活動の実績のパネル等での公開</p> <p>(5)-2 ホームページアクセス件数 78万3,487件</p>	A	<p>資料の収集・公開、広報活動、収蔵品のデジタル化、児童生徒を対象とした事業を積極的に行っており、評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 資料のIT化、デジタル対応は一層推進するべきである。</p>
<p>(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>		<p>(2)-1 児童生徒を対象とした事業</p> <p>① 親と子の文化財教室 2回(前期4日・後期4日)</p> <p>② 修学旅行生等を対象とした解説ボランティアによる展示作品解説及び課題学習等の質問への対応</p>	A	<p>児童生徒を対象とした活動や講演会、講座などが目標に即して適切に実施された。「親と子の文化財教室」は博物館の児</p>

<p>しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(東京国立博物館) 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。</p> <p>中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。</p> <p>(京都国立博物館) 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。</p> <p>(奈良国立博物館) 親子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。</p> <p>修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。</p> <p>(3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p> <p>(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>親子の文化財教室</p> <p>特別展等講座</p> <p>夏期講座</p> <p>ギャラリートーク</p>	<p>300人以上</p> <p>210人以上 300人未満</p> <p>210人未満</p> <p>9回以上</p> <p>6回以上 9回未満</p> <p>6回未満</p> <p>1,000人以上</p> <p>700人以上 1,000人未満</p> <p>700人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p> <p>3日以上</p> <p>2日</p> <p>2日未満</p> <p>120人以上</p> <p>84人以上 120人未満</p> <p>84人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p> <p>15回以上</p> <p>11回以上 15回未満</p> <p>11回未満</p> <p>500人以上</p> <p>350人以上 500人未満</p> <p>350人未満</p>	<p>③ 正倉院展における子供向け音声ガイドの制作(483件貸出)</p> <p>④ 特別展「曙光の時代—ドイツで開催した日本考古展—」において、小中学生に対し学校行事として来館した場合、入場無料とした。</p> <p>(3)-1 講演会等の事業</p> <p>① 公開講座 20回</p> <p>② ギャラリートーク 16回</p> <p>③ 夏季講座 1回(3日間)</p> <p>(3)-2 友の会活動</p> <p>会員数 2,638人(一般2,419人、学生197人、家族22人)</p> <p>119人</p> <p>20回</p> <p>1,867人</p> <p>未実施</p> <p>3日</p> <p>331人</p> <p>未実施</p> <p>16回</p> <p>893人</p>	<p>C</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>児童生徒を対象とする事業として先導的な役割を担うものとなっており、奈良市の小中学校を対象に、教員向けの講座を実施したことは、良好な教育活動として評価できる。しかし、やや固定化した感も否めないで、さらなる充実に向けた検討が期待される。</p> <p>また、「友の会」を含む支援組織の拡充に当たっては、広報活動の充実や組織の再編等の強化が望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>奈良の街と展示物を直接つなぐ教育普及事業をより活発に行うことが望まれる。建造物や職人の技術、行事といった街の文化的資源も館のコレクションの一部と考え、有効活用すべきである。</p> <p>また、一般観覧者にも配慮しつつ、教員等が展覧会場内で児童生徒に解説のできる方策を検討することが望まれる。</p> <p>その他、友の会等の支援組織への参加者に対しては、参加形態の別に応じて相応しい付加価値を付けることを検討する必要がある。</p>
<p>(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。</p> <p>(6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力を展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。</p> <p>なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。</p>	<p>研修等の取組み状況</p> <p>博物館実習</p> <p>放送大学の面接授業</p> <p>奈良女子大学との連携講座(大学院生)</p> <p>ボランティアの受入件数</p> <p>ボランティアに対する研修</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>50人以上</p> <p>35人以上 50人未満</p> <p>35人未満</p> <p>2回以上</p> <p>1回以上 2回未満</p> <p>1回未満</p> <p>150人以上</p> <p>105人以上 150人未満</p> <p>105人未満</p> <p>3人以上</p> <p>2人</p> <p>2人未満</p> <p>99人以上</p> <p>69人以上 99人未満</p> <p>69人未満</p> <p>8回以上</p> <p>6回以上 8回未満</p> <p>6回未満</p>	<p>(4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言</p> <p>・「国宝 鑑真和上展」(仙台市博物館 4月3日～5月9日)</p> <p>・「唐招提寺展」(東京国立博物館 1月12～3月6日)</p> <p>(4)-5 大学等との連携</p> <p>博物館実習生受入れ人数等 20大学51人</p> <p>放送大学の面接授業 6回実施(受講生各150人)</p> <p>奈良女子大学との連携講座の開設 大学院生7人を受け入れ</p> <p>(6)-1 ボランティアの活用状況</p> <p>解説ボランティア登録者数 100人</p> <p>展示解説、インフォメーション、学習普及活動補助等の充実</p> <p>イベントボランティア 9人</p> <p>会場整理、パンフレット配布、受付</p> <p>25大学51人</p> <p>6回</p> <p>150人</p> <p>7人</p> <p>109人</p> <p>10回</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>中期計画に沿って着実にその成果をあげている。ボランティアの支援により、各種イベント等が円滑に運営され、来館者サービスの向上に実をあげたことは評価に値する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>放送大学の面接授業、奈良女子大学との連携講座は継続されることが望まれる。今後は新しいメディアを通して、ミュージアムが授業番組を提供できるような仕組みを模索することが望まれる。</p> <p>また、ボランティアの採用にあたっては、本人の希望と能力に相応しい多様な活用が検討されるべきである。解説ボランティアに対しては、適宜研修を行うことが必要である。</p> <p>公立美術館・博物館への指定管理者制度導入により、経営、運営に種々の問題が生じ、国立博物館へ指導・助言・相談を行う事例が多くなると予想されるので、積極的な対応を行うことが求められる。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(6)-2 渉外活動</p> <p>① 展覧会広報に係る企業・公共交通機関等との連携</p> <p>・近鉄奈良駅構内での博物館紹介および展覧会ポスターの常設掲示及び特別展におけるポスター制作及び駅貼、車内吊り等の協力</p> <p>・奈良県観光連盟主催観光イベント(年数回)における展覧会ポスター・チラシの掲出による広報協力</p> <p>・奈良市観光協会発行季刊誌「大和の四季彩」への展覧会特集記事の掲載</p> <p>・常設展(特別陳列『談山神社の名宝』)における毎日新聞大阪本社の後援</p>	<p>A</p>	<p>中期計画に沿って、入館者サービスの向上に努めたことが認められる。地域との連携を深め、広報等において、多様な努力が認められる。その一方で博物館における渉外には、文化機関としての自覚も望まれる。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・正倉院展における広報協力 <ul style="list-style-type: none"> a 朝日新聞社からの広報協力の継続 b NHKによる展覧会特集（新日曜美術館 11月7日放映） c 近鉄、JR西日本、JR東海、チケットぴあ、ローソン、ファミリーマート、地元ホテル・旅館での前売券の販売委託及びポスター・チラシの掲出 d JR西日本による正倉院展のヘッドマーク付き電車の運行 ・(財)大阪21世紀協会発行外国人向け伝統芸能公演及び展覧会情報紹介冊子「MEET OSAKA」(季刊3万部)への展覧会情報の掲載 ・奈良市観光協会及びJR東海の協力により、特別展「黄金の国・新羅」「正倉院展」「厳島神社国宝展」「曙光の時代」のチラシを首都圏を中心に4都市6ヶ所の駅に設置 <p>② 賛助会員制度の創設 新規入会 8件</p>		<p>【より良い事業とするための意見】</p> <p>地域資源の有効な活用について積極的に取り組む必要がある。鉄道や観光事業者との提携や協力を積極的に進め、「関西一円」をPRしていくことが望まれる。</p>
<p>6 その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的を実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)-1 高齢者・身体障害者のための施設整備等</p> <p>①身障者用トイレ 3か所（東新館1、地下回廊2）</p> <p>②身障者用エレベータ 3基（本館1、東新館1、西新館1）</p> <p>③スロープ 2か所（本館、西新館）</p> <p>④車椅子 10台</p> <p>⑤館内休憩スペースの増加及び効果的な配置</p> <p>(1)-2 観覧環境の充実</p> <p>①導線の改善、題箋の文字の大きさ・分量の工夫、効果的な休憩スペースの配置</p> <p>館内案内チラシの作成・配布（正倉院展）</p> <p>②音声ガイドの導入（特別展）2万8,722台</p> <p>（日本語 2万7,967台 英語 2,722台 子供 4,833台）</p> <p>③常設展示の英語表記の充実及び中国古代青銅器コレクションの定期的・効果的な展示替の実施</p> <p>④解説ボランティアによる、展示室内での一般入館者及び講堂での学校等団体を対象とした作品解説</p> <p>展覧会場内・・・随時（年間 316日）、講堂での団体申込・・・19件</p> <p>⑤映像での情報提供・・・学習コーナーにおいて工芸技術記録映画の上映（正倉院展）及び厳島神社の芸能を紹介（厳島神社国宝展）、ロビーにおいて厳島神社の被害の状況を紹介（厳島神社国宝展）</p> <p>(1)-3 入館者等の要望の反映</p> <p>①年度を通じたアンケート調査の実施と、調査結果の展示等への反映</p> <p>②特別展及び特別陳列に対する専門家からの展覧会評の広報誌（博物館だより）への掲載</p> <p>③特別展会期中間運行の開催（呈茶席、各種コンサート等）</p> <p>④臨時の茶店・軽食販売所・郵便局の開設（正倉院展）</p> <p>⑤外国語版リーフレットの充実（従来の英・中・韓・独・仏5ヶ国語に、スペイン語を追加）</p> <p>(2) 夜間開館等の実施状況</p> <p>①夜間開館 開館日数 35日</p> <p>実施日 4月最終から11月第2の各金曜日、8月14日、8月15日、12月17日、1月の第2月曜日の前日、2月3日、3月12日</p> <p>入館者数 3,396人</p> <p>②開館日の増 開館日数 9日</p> <p>実施日 ゴールデンウィーク期間中及年始（1月2日）をはじめ、正倉院展期間中及び近隣社寺及びその他地元開催行事に合わせた休館日（月曜日）</p> <p>入館者数 20,862人</p> <p>③開館時間の弾力化 会期中無休及び開館時間の前後拡大（正倉院展）</p> <p>④無料観覧日 実施日 5月5日、9月20日（常設展）</p> <p>（5月5日は小・中学生のみ特別展も無料）</p> <p>11月1日（『留学生の日』）（常設展・特別展 外国人留学生のみ）</p> <p>11月20日・21日（『関西文化の日』）（常設展）</p> <p>(3) レストラン・ミュージアムショップの充実</p> <p>入館者へのアンケート調査の結果を踏まえ、メニューの改善に役立てたほか、地元観光イベント「なら燈花会」（8月5日～15日）会場の一部として博物館が協力開催期間中、休憩所として営業時間を延長</p> <p>4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者（70歳以上）の常設展の無料化 ・イベントボランティアによるコンサート等のイベント業務の補助 ・英語版図録の刊行（正倉院展） 	A	<p>中期計画に沿って、多様なサービスの向上に努めたことを評価できる。「関西文化の日」の協力をはじめ、地域の事情を考慮した開館日、開館時間に対する柔軟な対応、バリアフリー化の推進、特別展における入場券の前売り販売、統一デザインによる案内板の導入、留学生の日の設定等、様々な工夫が見られ、評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <p>ポスター等のデザインにばらつきがあり、教育系の広報物のデザインの質が低い。デザインの仕方いかんによっては、良い内容のものもそれに相応しい評価を得られない場合があることから、デザインの重要性を認識すべきである。館としてのデザインコードを細かく決め、デザインコードに沿った展開を行うことが望まれる。また、開館日・開館時間の延長などについて、効果的な広報が必要である。</p> <p>その他、高齢者の利用者が毎年多くなっていることを考慮し、施設利用や顧客サービス全般にわたるより細やかな調査を行うことが望まれる。</p>	

【九州国立博物館】

中 期 計 画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評定	評 定 定性的評定
		A	B	C			
1 新たな博物館の運営に向けた取り組み 法人本部に九州国立博物館（仮称）設置	開館への準備状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議によ			<p>(1) 九州国立博物館の設置準備</p> <p>① 新たに事務職員・研究職員10人が措置され、計26人体制となった。</p> <p>② 平成16年3月に建物竣工したことに伴い、職員の主たる勤務場所を太宰府市に移転した。</p>	A	平成17年10月15日の開館（記念式典）に向け、計画通り順調に準備が進められており、おおむね評価できる。ただし、

準備室を設置し、展示の企画・設計・展示に必要な作品収集、調査研究等の機能の整備など、開設に支障のないよう準備を推進する。

り、評定を決定する。

- ③ 館の名称を「九州国立博物館」とし、平成17年10月15日(土)開館記念式典、翌16日(日)から一般公開することを決定するとともに、広く周知を図った。(英文表記:Kyushu National Museum)
- ④ 「九州国立博物館」の特色を表すシンボルマークを制定し、印刷物に掲載する等、積極的な広報利用を図った。
- ⑤ 平成17年4月に機関設置するため、労働基準監督署等の諸官庁への届け出の準備を進めた。

(2) 常設展示業務

- ① 展示基本設計に基づき、展示工事を行う。
 - ・常設展示実施設計に基づき展示工事を行い、当初の予定どおり完工した。
 - ・展示ケース内の展示台、演示具、パネル等を実際の展示に適合するよう設計・作製を実施する。演示具製作等について、当初16年度実施予定のものでも、17年度実施の作業と一体的に行うことの方が、合理的かつ経済的なものについては、スケジュールの見直しを行った。
- ② 実物資料、レプリカ等の展示資料を、開館時までに収集・作製するため、これらの情報収集等を行う。
 - ・展示計画に支障がないよう資料購入、レプリカ・模型作製及び寄贈受入を行うとともに、展示実施設計に基づいて、展示資料にかかる国内外の関係機関との調整・交渉等を行った。(購入9件/寄贈2件/レプリカ・模型5件/修理53件(東博所管分含む。))
 - A 資料購入費として1億円が措置され、9件の展示資料を購入した。
 - B 東京国立博物館や地方自治体から移管される作品を含め、列品の輸送を開始した。
 - C コレクション寄贈9件及び寄託2件について、それぞれ協議中である。
 - D 対馬宗家関連資料の調査を文化庁美術学芸課と共同で実施し、重要文化財に指定された。
 - E 大韓民国国立中央博物館を訪問し、展示資料の借用について交渉・調査を行った。
 - F 東大寺山古墳金錯銘大刀・清道旗など5件のレプリカを作製した。
 - G 東京国立博物館から移管予定の展示資料50件を含め、53件の資料について修理を実施した。
 - H 中華人民共和国を訪問し、映像番組の製作等を行った。(県全体)
 - I ベトナム民主主義人民共和国を訪問し、映像番組製作及び交流等について交渉の上、実施した。
 - J 東京国立博物館が所蔵する展示資料に対する実態調査を実施し、そのうちの一部を搬入した。
 - K 国内の博物館等が所蔵する展示資料に関し、昨年に引き続き各テーマ毎に実態調査を実施した。
 - L 展示資料の借用交渉の結果、東京国立博物館850件、京都国立博物館19件、奈良国立博物館38件について、展示計画の相互調整を行うとともに、その他の博物館1,000件から借用の内諾を得た。
- M 東京国立博物館から提供を予定している資料について、プロの写真家による写真撮影を実施し、図録作成の準備を行った。
- N 写真・研究員室で使用する撮影機材の選定に関し、照明機器の仕様決定委員会設置の検討を行った。
- O 新たな展示資料となる寄贈品に対して、調査、検討、搬入を行った。

(3) 共催展の開催に向けた取り組み

- ① 開館記念特別展「美の国 日本」を開催する。
 - A 借用交渉
出品リストに基づき借用交渉を行い、国内については展示作品が決定した。
 - B 海外職員派遣
展示品借用交渉のため、中華人民共和国、大韓民国、オーストラリア、アメリカ及びベトナムに職員を派遣した。
 - C 国内職員派遣
展示品借用交渉のため、1都2府7件の39機関と借用交渉を行った。
- ② 新春展「中国 美の十字路」の開催に向け、共催者と4回にわたり協議を行い、開催を決定した。また、開催に向けた準備を行い、210件にわたる作品リストを確定し、57件の作品について出品の内諾を得た。
 - A 海外職員派遣
展示品借用交渉及び調査のため、中華人民共和国とアメリカに職員を派遣した。
 - B 国内職員派遣
開催のための調査と協議のため京都大学人文科学研究所、森美術館及びMIHOMUSEUMに職員を派遣した。
- ③ 第3回特別展「ちゅら島」の開催に向けて、沖縄県立博物館をはじめとする9機関と計20回にわたる協議を行うとともに、8回の現地調査(沖縄県)を行い、展覧概要を決定した。
- ④ 第4回特別展「南の貝」(仮称)の開催に向けて、九州国立博物館支援協議会と2回にわたり協議を行うと共に、文化庁とも2回にわたり協議を行い、展覧概要を決定した。
- ⑤ 17年2月15日から4月10日まで、東京国立博物館において、ミニ企画展として「ホップ・ステップ・九博」展を開催した。(4万3,038人観覧)

(4) 設立準備における現状をインターネット等の媒体を通して発信し、更新に努め、広報活動の充実を図る。

- ① ホームページに、催し物・職員募集等の情報を迅速に発信し、更新を頻繁に行った。さらに、装飾古墳データベースの公開など内容の充実を図り、87万件(前年比5.5倍)のアクセスを得た。
- ② 九州国立博物館公式ホームページを開設するため、WEBコンテンツ検討委員会を開催し、実施設計をまとめた。
- ③ 施設紹介パフレット、リーフレット及びポスターを作成し、広く周知を図った。館名・開催日が決定してからは、リニューアル版を作成し、さらなる広報に努めた。
- ④ 当館購入品について、地元記者会に向け資料配布を行った。
- ⑤ 地元を中心に、新聞、雑誌、ホテル、大学等の問い合わせに対し、積極的に情報提供した。特にまた、新聞紙上では、虫害対策、ボランティア活動など多面的に紹介された。
- ⑥ 古美術品を扱った映画「ナショナルトレジャー」の試写会を開催した。その際、映画の内容に関わりのある当館所蔵を参加者に特別公開した。

(5) 博物館諸機能業務に関して開館後の事業内容を検討し、開館に向けたスケジュールを作成する。

- ① 管理運営業務
 - A 17年10月に開館予定であることから、これを見据えた17年度の警備業務、設備管理業務について委託契約を行った。また、移転後の事務体制や法人本部との連絡体制について検討した。
 - B 機関設置後の会計処理を九州で行うことから、会計システム・給与システムの導入を行った。
 - C 正月の開館日について検討し、併せて当館の認知度を高めるため、最寄駅である西鉄太宰府駅周辺でアンケート調査を実施した。
- ② 博物館科学(保存修復)業務
 - A 竣工後の施設設備の性能調査と保存科学的観点からの環境調査を行った。

開館後の通常事業プログラムに関する広報が未だなされておらず、団体・学校関係機関において、今年度の利用計画を立てるには情報が不足している状態である。特に、保存科学は館の大きな魅力作りとして一般の人々にアピールできるものであるが、これについての教育普及活動のプログラムが見えてこないことなど、進捗がやや遅れがちな部分がある。また、県及び独立行政法人の職員、さらには250人のボランティアを含めた全スタッフのマネージメントを的確に把握するコーディネーターとしての役割を担う人材の登用が必要である。

【より良い事業とするための意見等】

名だたる観光地と直結した立地条件にある博物館として、地域性を活かした広報を行うことが重要である。法人・個人を含む強固な支援組織を作り上げることが、運営基盤の確立にもつながり、未来に拓ける博物館としての業務推進の原動力となる。

また、IT化・デジタル化時代の最先端の博物館として、全国のアート・博物館のモデルケースとなるような業務の展開が望まれる。

- B 収蔵庫棚工事、展示工事について、保存科学的観点からの監理を行った。
 C 総合的有害生物管理（IPM）体制による文化財搬入が実施できた。
 D 展示予定資料53件について、修理事物の選定、修理仕様の検討、施工監理を保存修復科学的観点から行った。
 E 基本的分析機器類の設置により、博物館科学業務の基礎ができた。
 F 修理工房の立ち上げの準備を行い、伝統技術を用いた修理事業を進める基盤ができた。
- ③教育普及・生涯学習業務（福岡県と共同実施）
 A 九博準備室、福岡県国立博物館対策室及び外部委員からなる教育普及検討会議を設置し、13回の会議・視察を開催した。
 B 教育普及検討会議においては、アジア文化体験エリアの活動内容および展示プランの具体案の開発と併行して、子どもや親子がアジアの文化に親しめるようなプログラムを、さまざまな試行を経て決定することを目標として検討した。その結果、アジア文化体験エリアの呼び名を「あじっば（アジアの原つばの意）」と決定した。
 C 展示解説や館内案内を行うボランティアを募集した。正式な登録を決定する前に事前研修を行った。
 D 歴史やボランティアに興味を持つ高校生を「ジュニア学芸員」として、小学生が行うワークショップの指導の手伝いや展示解説を行う「ジュニア学芸員モデル事業」を13回実施した。
- ④交流業務
 当館のテーマである、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」に沿った国際シンポジウムや研究交流事業等を実施した。
 A 国際シンポジウムの実施
 「海の道、アジアの路」をテーマに、第19回国民文化祭・ふくおか2004の一環として、11月13日（土）に福岡市において国際シンポジウムを九州国立博物館誘致推進本部、（財）九州国立博物館設置推進財団と共催で開催し、約600人が参加した。
 B 歴史学会・研究会との共催シンポジウム等
 ・7月に高句麗遺跡が世界遺産に登録されたことを記念し、九州国立博物館開館イベントとして、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団等との共催により、9月19日（日）に福岡市において「古代日本と高句麗文化」を開催し、約400人が参加した。
 ・10月9日（土）～13日（水）まで、第16回全国生涯学習フェスティバルまなびピア愛媛2004において、館蔵品の紹介やマイクロスコープのデモ等を実施し、5日間の来訪者は、延べ2,576人であった。
 ・ベトナムの遺跡発掘にあたった研究者を招き、ベトナム考古学の最新成果を紹介する講演会「ハノイ王宮遺跡と陶磁器の道」を朝日新聞社との共催により、12月4日（土）に太宰府市内において開催し、約200人が参加した。
 ・17年3月12日（土）に東京国立博物館において「九州国立博物館講演会」を開催し、九州国立博物館の紹介及び福岡県の協力を得て福岡県の見どころの紹介を行った。164人が参加した。
 C 教職員の研修会等における九州国立博物館の説明
 九州国立博物館の利用を学校関係者に周知するため、8回の教職員研修会等において博物館の展示内容や機能等について説明を行った。
 D 第9回国博デー
 九州国立博物館を支援する会等と共催で、「夢が近づく博物館」と題しパネルディスカッションを17年3月19日に開催し、370人が参加した。
 E テレビ西日本・西日本新聞社との共催により、17年3月27日（日）に当館において、記念シンポジウム「博物館がやってきた」を開催し、九州国立博物館の紹介を行った。参加者は約500人であった。
 F 九州国立博物館見学会
 平成17年1月11日（火）から週2日（1日2回）、九州国立博物館を支援する会による一般の見学会を実施している。3月末までに3,603人の申し込みがあった。
 G 第3回まるごと博物館スタンプラリー
 太宰府市が主催するスタンプラリーのポイントとして選ばれ、1階を解放し、建物見学も同時にできるような協力し、広報に努めた。平成17年3月26日（土）に開催され、596名参加した。
- ⑤高度情報化業務
 A 政府がe-japan重点戦略として推進しているEA（業務システム最適化計画）を導入した。博物館経営戦略を実現するために必要な情報システム（収蔵品管理、調査研究支援、博物館マネジメント、WEBコンテンツ作成システム等）の実施設計に基づき開発を行った。情報システム構築に際しては、国際博物館協会が国際標準として提唱したCRM（概念参照モデル）を参照した。
 B 装飾古墳画データベースについては、GISシステムを用いてデモバージョンを作成し、インターネットに公開した。
 C 情報システムにおける収蔵品管理データベースの画像として、展示資料の写真撮影、デジタル化を行った。
- (6)「ホップ・ステップ・九博」展**
 1) 開会期間 17年2月15日（火）～4月10日（日）（51日間）
 2) 会場 東京国立博物館本館特別2室・特別4室
 3) 主催 九州国立博物館館設立準備室、東京国立博物館
 4) 陳列品総件数 49件（うち重要文化財10件、重要美術品2件）
 5) 担当した研究員数 4万3,038人
 6) 入場料金 大人420円（210円） 大学生130円（70円）
 ※（ ）内は20人以上の団体料金
 7) 担当した研究員数 10人
 8) 展覧会の内容 開館準備状況を①2つのテーマ展示、②装飾古墳VR映像、③博物館科学部門展示、④教育普及プログラム実施、⑤研究員によるギャラリートークの実施により紹介する。
 9) ギャラリートーク 6回
 1) 広報 ちらしを首都圏を中心とした官公署、学校、美術館・博物館、旅行社など約3,000ヶ所に送付。月刊文化財、国立博物館ニュース、報道機関への発表及び資料提供等を実施。
 2) アンケート調査 展示室内にアンケートコーナーを設け、観覧者が自由に記入。
 ①調査期間 17年3月27日～17年4月10日
 ②アンケート回収数 58件
 ③アンケート結果 満足29%（17件）・なかなか41%（24件）・まあまあ26%（15件）・不満3%（2件）